財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 2月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻525号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

2012ロンドンオリンピック男子アジア予選
第20回女子世界選手権
第63回全日本総合選手権大会
男子第54回・女子第47回全日本学生選手権大会

1・2
JAN.FEB.2012・No.525



［表紙写真：全日本総合で男子初優勝を飾ったトヨタ車体の門山哲也選手］

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/


molten
For the real game
molten
ACENTEC™
Accuracy Enhancing Technology
For the real game
「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。
株式会社 モルテン 東京都墨田区横川五丁目5-7
www.molten.co.jp

行け！ しなやか 日本!!
女子日本代表
（第20回女子世界選手権から）



（財）日本ハンドボール協会 副会長　多田　博

私は、昨年12月2日から18日までブラジルで開催された第20回女子世界選手権に日本代表チームと一緒に行って参りました。

最終結果は、優勝：ノルウェー、２位：フランス、３位：スペイン、４位：デンマークと、これ迄強いと言われた本命が順当な結果を収めています。しかし、今回の大会を通じ大きな変化のうねりがあります。それは、ハンドボール新興国の大幅な進化です。アフリカ大陸より決勝トーナメント参加が２か国、特にアンゴラは予選リーグで、ドイツ、アイスランドを破り、決勝トーナメントでも韓国を破りベスト８進出でした。チュニジアも予選リーグで敗退しましたが、フランスとは好試合をし、ブラジル、日本とは一点差でした。又、アメリカ大陸では、2016年オリンピック開催国のブラジルが、予選リーグではフランスを破り全勝で決勝トーナメントに進み、スペインに一点差で敗退、５位に入賞しています。それに比較し、アジア大陸は、韓国、日本が決勝トーナメントには進みましたが、ベスト８に残れませんでした。間違いなく新興国のハンドボール進化のスピードが増して、ヨーロッパ勢との差を大きく縮めています。上記３か国の共通点は、選手たちがデンマーク、スペイン、フランスなどのプロチームに所属し、技術、情報を体得して来ていることが挙げられます。この流れからアジアが取り残されていっていることは否めません。日本協会としても大きな検討課題の一つと思います。

一方、我が日本代表チームの今回の印象は一言で“しなやか”でした。世界選手権が24か国制になってから初の決勝トーナメントへ進みました。決勝トーナメントの前でもハードな練習が続きましたが、選手は明るく元気一杯でした。ボールを使っての練習だけでなく、筋トレにも励んでいました。選手が重いバーベルを軽々と上げるのを見て、女子ハンドボールプレイヤーも変わってきたのを実感しました。

決勝トーナメントでの対戦相手デンマークの選手は、大型で又シュートも威力が有りましたが、日本の守備は相手のエース達に素早く詰め、キーパーも連続のナイスプレーで連続得点を許さず、相手が剛の攻めに対し柔らかく包み込みました。一方、攻めては威力は劣ってもスピードのある正確なシュートを決め、まさに“しなやか”なハンドボールで対抗しましたが、惜しくも延長で敗戦となりました。

日本代表チームは良くやったと思います。キャプテンの藤井選手が攻撃の中心となり、全員での“しなやか”な防御のチームでしたが、今回の一番の功労者として、若松選手を挙げたいと思います。試合前の練習では、大きな声を上げ元気一杯皆の中心となり、試合中はビデオ係を引き受け、試合後もチームの為に庶務係となり、次回大会以降、試合で活躍してくれることを期待しています。本当に良いチームでした。

日本代表は今回歴史を作ることは出来ませんでしたが、間違いなく風をおこしました。５月のオリンピック最終予選への確かな手応えを感じました。

今の日本代表はオリンピックに出場し、上位を狙える位置にあると思わせるに十分な世界選手権出場でした。動きが素早くなめらかで柔らかい女子日本代表の戦い方を見て、“しなやか”という言葉が一番あてはまると感じました。

行け！　しなやか　日本！！　「女子日本代表」

2012 ロンドンオリンピック 男子アジア予選

Asian Men's Qualification for Olympic Games, London 2012 (Seoul, Korea 2011)

選手団名簿

役　職	氏　名	所　属
団長	川上　憲太	(財) 日本ハンドボール協会
副団長	西窪　勝広	(財) 日本ハンドボール協会
監督	酒巻　清治	(財) 日本ハンドボール協会
コーチ	中山　剛	(財) 日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	沖本クリニック
トレーナー	赤尾　和彦	(株) TFA カンパニー
分析	舎利弗　学	(財) 日本ハンドボール協会
総務	近藤　恒俊	(財) 日本ハンドボール協会

No.	背番号	名　前	所属	生年月日	身長	体重	出身校	国際試合	
								試合数	得点
1	1	篠内 (浦和) 克行	大崎電気	1982.02.03	177	78	日本体育大学	19	0
2	3	小澤　広太	大崎電気	1985.12.09	170	73	法政大学	3	9
3	4	末松　誠	大同特殊鋼	1982.03.19	178	79	国士舘大学	61	257
4	5	高智　海吏	トヨタ車体	1985.01.22	186	90	大阪体育大学	17	45
5	6	豊田　賢治	大崎電気	1979.12.24	181	78	国士舘大学	72	309
6	7	宮崎　大輔	大崎電気	1981.06.06	173	75	日本体育大学	97	476
7	8	武田　享	大同特殊鋼	1982.09.17	191	88	国士舘大学	52	67
8	9	永島　英明	大崎電気	1977.03.24	189	95	大阪体育大学	92	83
9	10	岸川　英誉	大同特殊鋼	1984.10.28	188	92	早稲田大学	41	64
10	11	海道　衛秀	トヨタ紡織九州	1984.07.14	174	68	筑波大学	25	27
11	12	甲斐　昭人	トヨタ車体	1987.04.29	184	90	日本体育大学	10	0
12	13	富田　恭介	トヨタ車体	1983.11.11	190	91	中部大学	47	95
13	15	森　淳	大崎電気	1987.03.12	189	94	大阪体育大学	25	32
14	16	松村　昌幸	湧永製薬	1978.12.13	188	90	福岡大学	34	0
15	17	村上　秀行	トヨタ紡織九州	1981.06.16	172	73	大阪経済大学	15	37
16	18	野村　喜亮	大同特殊鋼	1987.01.22	186	84	早稲田大学	31	88
17	20	東長濱　秀希	大崎電気	1987.11.21	185	78	日本体育大学	13	20
18	22	門山　哲也	トヨタ車体	1983.10.22	186	92	日本大学	67	227

試合結果

	Aグループ	KSA	IRI	QAT	KUW	UZB	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1位	サウジアラビア		22 ○ 21	27 ● 28	30 ○ 21	41 ○ 26	4	3-0-1	120	96	24	6
2位	イラン	21 ● 22		35 ○ 32	27 ○ 23	45 ○ 22	4	3-0-1	128	99	29	6
3位	カタール	28 ○ 27	32 ● 35		31 △ 31	38 ○ 32	4	2-1-1	129	125	4	5
4位	クウェート	21 ● 30	23 ● 27	31 △ 31		44 ○ 26	4	1-1-2	119	114	5	3
5位	ウズベキスタン	26 ● 41	22 ● 45	32 ● 38	26 ● 44		4	0-0-4	106	168	-62	0

1，2 位順位は同勝ち点のため、規程により直接対戦の結果で決定。

	Bグループ	KOR	JPN	CHN	OMA	KAZ	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1位	韓　国		31 ○ 18	31 ○ 25	31 ○ 24	41 ○ 15	4	4-0-0	134	82	52	8
2位	日　本	18 ● 31		26 ○ 24	34 ○ 29	46 ○ 15	4	3-0-1	124	99	25	6
3位	中　国	25 ● 31	24 ● 26		24 ○ 23	38 ○ 16	4	2-0-2	111	96	15	4
4位	オマーン	24 ● 31	29 ● 34	23 ● 24		41 ○ 27	4	1-0-3	117	116	1	2
5位	カザフスタン	15 ● 41	15 ● 46	16 ● 38	27 ● 41		4	0-0-4	73	166	-93	0

■9－10位決定戦
ウズベキスタン（A－5位）　32（13－11、19－12）23　カザフスタン（B－5位）

■7－8位決定戦
クウェート（B－4位）　36（20－15、16－12）27　オマーン（A－4位）

■5－6位決定戦
カタール（A－3位）　30（12－14、18－ 7）21　中　国（B－3位）

■準決勝
日　本（B－2位）　22（14－ 9、 8－12）21　サウジアラビア（A－1位）
韓　国（B－1位）　33（15－11、18－14）25　イラン（A－2位）

■3位決定戦
イラン（A－2位）　21（10－11、11－ 9）20　サウジアラビア（A－1位）

■決勝
韓　国（B－1位）　26（11－10、15－11）21　日　本（B－2位）

団長報告　川上憲太

日本のハンドボール界の悲願をかけたオリンピックアジア予選男子の部は、既報の通り、韓国・ソウルの新装成ったSKスタジアムで行われました。

開催国・韓国の意向もあり、予選リーグのオープニングゲームに日本対韓国が組まれました。ハンドボール強国の韓国でありますが、通常は観客の関心の薄い試合会場に李明博大統領も応援にかけつけるという異例の超満員・完全アウェーの中で試合が行われました。日本チームは十分に想定し準備はしていたものの、若干浮足立った事は否めません。全く良い所を出せないまま韓国ペースで存分にやられました。予選リーグの2位までに入れば決勝ラウンドに進めるという条件下で、「探るも良し、勝つも良し」ではありましたが、かなりの衝撃が残りました。

そのハンデキャップを末松主将を中心に選手全員が気持ちを切り替え、翌日の難敵・中国戦に挑み、後半逆転されるも総力で盛り返し勝利。チーム状態はオマーン戦、カザフスタン戦と少しずつ上向き、決勝ラウンドへ。男子の近年のアジア状勢は中東の実力アップが著しく、イラン・カタール・サウジアラビア・クウェート・バーレーンは、我が日本にとっても一つ間違えば食われてしまう相手です。その中から決勝ラウンドへは中東からイラン・サウジアラビアが上がってきました。本当に気の抜けない相手であるサウジアラビアに気持ちを一つにして全員で集中して戦って勝利してくれました。

いよいよの韓国戦、予選ラウンドの戦いぶりとは全く違う集中力のある気持ちのこもった試合展開に、韓国サイドに緊張が走りました。しかし後半の後半に連続退場の隙をつかれ、突き放されました。この日の為に3年半強化に邁進してきましたが、まだ足りなかったのです。悔し涙は止まりませんでした。

しかしまだ「何が起こるかわからない」世界最終予選があります。皆様、是非これまで以上に日本代表への熱い熱い注目とご声援をお願いします。

日本代表男子チーム監督　酒巻 清治

11月2日ロンドンオリンピックアジア予選決勝戦において韓国に敗れ2位となり、アジア大陸代表としてオリンピックロンドン大会への出場権利を獲得するには至らなかった。2012年4月に開催されるロンドンオリンピック世界最終予選に回ることになり、現時点でスウェーデン・クロアチア・チリらの強豪国との対戦に準備しなければならなくなった（この号が出ている頃には、2012年1月15日から始まる欧州選手権が開催あるいは終了しており、上位国の順位によっては、スウェーデンがアイスランドに繰り上げされる可能性がある）。いずれにしても韓国以上の強豪国には違いがない。

今回は韓国での予選について報告する。

大会直前までデンマークにおいてエリートリーグ勢との強化を重ね、大会2日前に韓国へ乗り込んだ。大会直前までチームスタッフすら掴んでいない情報が選手個人に伝わっていたりと大会前から情報戦が展開され、選手の集中力を削るような状況のなか大会がスタートした。オープニングゲームでの対韓国という状況と、グループ戦の試合日程を踏まえるならば、初戦の韓国戦はともかく、第2戦目が大きなポイントであることは明白であった。

時系列的に各試合について報告する。

〈韓国〉

オープニングゲーム、直近のアジア大会優勝チーム、過去何年も勝ちを収めていない相手、ということで、厳しい試合になることは十分予想され、結果大差での敗戦となった。

しかしながら次回闘うための収穫も多く、特に韓国DFの「高さ」を認識出来たことはその後につながった。一番のキーポイントは「切り替え」であった。

〈中国〉

大会日程が直前に決定した際、一番神経をとがらせた相手である。前日の韓国戦の勝敗に拘わらず、絶対に負けられない相手であった。ましてや中国は前日の対韓国戦で日本をスカウティング出来、日本は中国について情報を収集できないまま、「決戦」に挑まなければならなかった。そこで大きく選手たちの気持ちを落ち着かせたのが、東日本大震災後開催された東アジア選手権の対中国チーム（大半の選手が代表選手）に関する情報提供が日本の代表として出場した湧永製薬から提出されたことであった。

その甲斐あって、スタートから選手たちの集中力はすこぶる高く、近年中国と対戦した中でも最高の滑り出しであった。日本優位のまま進むかと思われた後半、落とし穴が潜んでいた。前日の韓国戦の影響が表れ始めた。前述したように「切り替え」をうまく処理した選手たちであったが、予想以上に反動が大きかった。「これでいける」と気持ちが落ち着きすぎ、集中力が削られると同時にミスが発生、中国を生き返らせてしまい、厳しい状況に追い込まれた。しかし中国もそこまでが精一杯、再度ギアチェンジに成功した日本には対抗する力は無かった。

〈オマーン〉

近年対戦が全くなく、大会に入ってからの試合と大会前にバーレーンで開催されたガルフ・カップの映像にてチーム・個人のパフォーマンスをチェック。左バックのエースに対して武田・富田を中心としてDFでゲームを支配した。後半に入り以降の試合も考慮し、出場時間の少ない選手を起用したが、今一つ波に乗ることができなかった。

しかしながら、準決勝での中東対策としては「準備」と捉えるには十分であった。

〈カザフスタン〉

予選グループ最終戦。実力的には問題のない相手であったが、準決勝に向けて隙を見せない試合にしたいところ、選手たちの集中力が高かった。危なげない試合運びで準決勝へ。

■予選ラウンドを振り返って

初戦の韓国戦での躓きからいかに切り替えられるかがキーであったが、選手たちはよく努力し、最も危険であった中国戦を乗り切れたことが大きなポイントであった。反対グループではイラン、カタールあたりが準決勝に進んでくるものと予測していたが、以外にもサウジアラビアのまとまりが際立っており、ツベトコビッチ監督（旧ユーゴスラビア代表、金メダリスト）の手腕によるものなのか、中東勢の中ではミスの少ないしつこいプレーを展開していた。しかしながら幸いなことに日本にとっては闘いやすい相手であり、予選グループを苦しみ抜いてきたことにより、落ち着いて準決勝に臨むことが出来た。

〈サウジアラビア・準決勝〉

ベイルートで苦しめられた経験はあるものの、昨年のアジア大会では相手の集中力が欠けていたとはいえ、比較的イージーゲームを展開。若手のエース（左バック）が予選グループで負傷し、復帰できなかったことも幸いしたのか、立ち上がりからゲームを支配。

宮﨑が故障をおして攻撃陣を引っ張り、DFではGK松村とセンター武田・富田ラインが今一つスピード感に欠けるサウジ攻撃陣を封じ込めることに成功。この試合大きなポイントであったサウジのベテランGK（ベイルートでは苦しめられた。）を前半早々で突破したことは大きく流れを引き寄せるのに奏功した。しかし、前半の仕上がりが良かった反動が後半の中盤に悪影響した。勝利を意識したため動きが硬くなり、相手GKにシュートを阻まれ自ら苦しい展開に。そこでピンチを救ったのが、海道であった。日本の攻撃が単調になっていたところ、相手の裏をかく鋭いプレーで得点に絡み出し、相手に渡った波を強く引き戻した。結果、韓国との決勝に進むことになり、この時点で世界最終予選への出場権を獲得した。



〈韓国・決勝〉

試合スタートから、オープニングゲームでのスカウティングが効果を発揮した。防御においては日本の６：０DFが十分効果ありとの判断から、初戦の敗戦後精度を高めてきた。

攻撃においては、DFラインの「高さ」は大会通じて把握できていたため、完璧ではないものの初戦よりも効果的なOFを展開。しかし後半残り15分あたりから攻守にほころびを見せ始めた。攻撃でのミスから相手速攻を許し、DFでは集中力の途切れた瞬間に退場者を出し、不正入場による不用意な退場などもあり、試合のペースを握らせてしまった。

結果この時間帯での攻防が影響し、追いつくことが出来なかった。悲願達成はならず、ロンドンオリンピックの出場権獲得は世界最終予選（グループ上位２位までが出場権獲得）まで持ち越されることになってしまった。

■次への強化について

３年間の強化において、様々な形で各方面からご支援・ご協力を賜り本当にありがとうございました。結果は、ご期待に添うことが出来ず、オリンピック出場の悲願達成は2012年４月の世界最終予選まで持ち越しとなりました。選手たちは日本の代表として良く闘ってくれましたが、監督として彼らの「能力」をより高いレベルで引き出すことが出来たのではないかと、悔やみきれない思いで一杯であります。2012年１月にはリベンジマッチである第15回アジア選手権（兼2013世界選手権予選）がサウジアラビア・ジェッダで開催され、4月には、世界最終予選（開催地：スウェーデン）にてクロアチア・スウェーデン・チリの強豪国２つを倒さなければなりません。世界のスピードは「待ったなし」の状況です。

この３年間、NTCを強化拠点とし、所属チームへは資金的・人的負担をお願いし、ファンの皆さんには「見えない」強化を進めてきました。前述したとおり、選手はいまだ可能性を十分秘めております。今回の厳しく悔やまれる結果を受け、より一層自分たちの「可能性」に磨きをかけてくれるものと信じております。日本を代表する選手たちは日本の皆さんに鍛えられます。

最後に、３年間日本代表チームが大変お世話になりました。ファンの皆さん、日本協会・JOC、チームスタッフ、スポンサー各社、所属チーム、Team Japan、88名の招集選手たち、本当に有難うございました。この誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。日本代表チームは次なる目標に向かって挑戦し続けます。今まで以上のご支援・ご協力を賜ります様何卒よろしくお願い致します。

日本代表男子チーム主将　末松　誠

10月23日から11月2日の期間で2012ロンドンオリンピック男子アジア予選が韓国・ソウルで開催されました。

私たち男子日本代表はこれまでの経験や努力を生かし、また日本で応援して頂いている家族、サポーターの期待に応え、何としてでも24年振りのオリンピック出場を達成するべく、大会に挑みました。

予選リーグ第１戦は、実力アジア№１として注視されている韓国。地元であり、韓国サポーターの大観衆の中でのスローオフとなり、堅さからか、立ち上がりに日本はミスを連発し、逆に韓国に得点され、リードを許す展開になりました。後半でもチャンスを作るものの得点が決まらず点差を埋めれないまま13点差という大差で敗戦してしまいました。しかし、落ち込んで下を向いている時間はなく、オリンピック出場を果たすためには、この大敗を次に生かし、残りの予選リーグを全て勝ち上がり、決勝で韓国ともう一度戦う事を誓いました。

一夜明けて第２戦は中国との対戦。スタートから絶対に負けられないという気持ちで全員がプレーし終始リードして試合を進めました。後半リズムを崩してしまい逆にリードを許す場面もありましたが、全員で気持ちを一つにし、最終２点差で勝利することができました。

残す予選リーグはオマーン、カザフスタンとの対戦であり、いずれも順当に勝ち星を上げ、決勝リーグへ進みました。準決勝はAグループ１位のサウジアラビアとの対戦を、なんとか勝利し決勝へ進みました。

決勝戦は、予選リーグで大敗を喫している韓国との対戦。私たち日本代表はこれまでトレーニングで積み重ねてきた事を出し切り、60分間全力でこの一試合を戦い抜く事、また絶対に悔いの残らないよう、日本代表としてのプライドを掛けて試合に臨みました。前半は途中までリードしながらも20分過ぎから韓国の追い上げにより１点ビハインドで折り返しました。後半もDFで流れをつかみ、全員で前を狙いながら戦ったものの、韓国の高いプレスDFを崩す事ができず、５点差で試合終了となりました。２位という結果でオリンピック世界最終予選へ参加する事となりました。

これまで酒巻監督を筆頭にロンドンオリンピック出場を目指し活動してきましたが、次の世界最終予選が切符獲得の最後のチャンスです。もちろん世界の壁は厚く、並大抵の戦いではありませんが、これまで支えていただいた周りの方々、いままで努力してきた自分やチームメイトのために、悔いのないように全ての気持ちをぶつけ、全力でハンドボールに没頭したいと思います。

2012 ロンドンオリンピック予選について（出場権詳細）

（注）2012 年 1 月 21 日時点の情報で掲載しています。

男　子　＊参加 12 カ国

◎オリンピック開催国…イギリス

◎ 2011 年世界選手権 1 位…フランス

◎各大陸代表…アジア：韓　国

パンアメリカ：アルゼンチン

アフリカ：チュニジア

ヨーロッパ（2012 年 1 月決定）

◎世界最終予選…2012 年 4 月 6 － 8 日

各グループ内でリーグ戦（総当たり）を行い、上位 2 ヶ国が出場権を獲得する。

予選会 1	予選会 2	予選会 3
＊デンマーク（ＷＣ２位）	＊スペイン（ＷＣ３位）	＊スウェーデン（ＷＣ４位）
＊ハンガリー（ＷＣ７位）	＊アイスランド（ＷＣ６位）	＊クロアチア（ＷＣ５位）
ヨーロッパ 1	ブラジル（パンアメリカ 1）	**日　本（アジア）**
アルジェリア（アフリカ）	ヨーロッパ 2	チリ（パンアメリカ 2）

＊印は 2011 年世界選手権（WC）により決定。

〈2011 年世界選手権順位〉

1 位：フランス　2 位：デンマーク　3 位：スペイン

4 位：スウェーデン　5 位：クロアチア　6 位：アイスランド

7 位：ハンガリー　8 位：ポーランド　9 位：ノルウェー

10 位：セルビア　11 位：ドイツ　12 位：アルゼンチン

13 位：韓国　14 位：エジプト　15 位：アルジェリア

16 位：日本　17 位：スロバキア　18 位：オーストリア…

2011 年世界選手権において 2 位から 7 位に入ったチームが五輪出場権を得た場合は、同選手権 8 位のチームが予選会出場権を得る（複数ある場合は順次繰り上がる）。

●世界最終予選の日本の対戦相手と直近の戦績

スウェーデン	2011 年 1 月の第 22 回世界選手権 4 位（日本は 16 位：対戦なし） 2005 年 1 月の第 19 回世界選手権での対戦結果（日本　18 － 32　スウェーデン） （日本は 16 位、スウェーデンは 11 位）
クロアチア	2011 年 1 月の第 22 回世界選手権 5 位（日本は 16 位：対戦なし） 2005 年 1 月の第 19 回世界選手権での対戦結果（日本　25 － 34　クロアチア） （日本は 16 位、クロアチアは 2 位）
チリ	2011 年 1 月の第 22 回世界選手権 22 位（日本は 16 位：対戦なし） 2005 年 1 月の第 19 回世界選手権出場せず

女　子　＊参加 12 カ国

◎オリンピック開催国…イギリス

◎ 2011 年世界選手権 1 位…ノルウェー

◎各大陸代表…ヨーロッパ：スウェーデン（※ 1）

アジア：韓　国

パンアメリカ：ブラジル

アフリカ：アンゴラ

（※ 1）ヨーロッパ予選 1 位のノルウェーは、2011 年世界選手権優勝により出場権を得た為、同予選 2 位のスウェーデンが出場権を獲得。

◎世界最終予選…2012 年 5 月 25 － 27 日

各グループ内でリーグ戦（総当たり）を行い、上位 2 ヶ国が出場権を獲得する。

予選会 1	予選会 2	予選会 3
＊フランス（ＷＣ２位）	＊スペイン（ＷＣ３位）	＊デンマーク（ＷＣ４位）
＊モンテネグロ（ＷＣ 10 位）	＊クロアチア（ＷＣ７位）	＊ロシア（ＷＣ６位）
ルーマニア（ヨーロッパ 1）	アルゼンチン（パンアメリカ 1）	チュニジア（アフリカ）
日　本（アジア）	オランダ（ヨーロッパ 2）	ドミニカ共和国（パンアメリカ 2）

＊印は 2011 年世界選手権（WC）により決定。

〈2011 年世界選手権順位〉

1 位：ノルウェー　2 位：フランス　3 位：スペイン

4 位：デンマーク　5 位：ブラジル　6 位：ロシア

7 位：クロアチア　8 位：アンゴラ　9 位：スウェーデン

10 位：モンテネグロ　11 位：韓国　12 位：アイスランド

13 位：ルーマニア　14 位：日本　15 位：オランダ…

●世界最終予選の日本の対戦相手と直近の戦績

フランス	2011 年 12 月の第 20 回世界選手権 2 位（日本は 14 位） 予選リーグ対戦（日本　22 － 41　フランス）
モンテネグロ	2011 年 12 月の第 20 回世界選手権 10 位（日本は 14 位：対戦なし）
ルーマニア	2011 年 12 月の第 20 回世界選手権 13 位（日本は 14 位） 予選リーグ対戦（日本　28 － 28　ルーマニア）



【最終順位】
優勝：ノルウェー
2位：フランス
3位：スペイン
4位：デンマーク
5位：ブラジル
6位：ロシア
7位：クロアチア
8位：アンゴラ
9位：スウェーデン
10位：モンテネグロ
11位：韓国
12位：アイスランド
13位：ルーマニア
14位：日本
15位：オランダ
16位：コートジボワール
17位：ドイツ
18位：チュニジア
19位：カザフスタン
20位：ウルグアイ
21位：中国
22位：キューバ
23位：アルゼンチン
24位：オーストラリア

第20回女子世界選手権大会報告

副団長　西窪 勝広

ブラジル、サンパウロをメイン会場として「第20回女子世界選手権大会」が開催された。

今大会は24ヶ国を4グループに分け6ヶ国で予選ラウンドを戦い、上位4ヶ国が本戦ラウンドへ、下位2ヶ国がプレジデントカップ（順位決定戦）へと進む方式で運営され、ノルウェーの優勝で閉幕した。

予選ラウンドCグループ（サンパウロ会場）に属した日本は、ブラジル、フランス、ルーマニア、チュニジア、キューバとの戦いとなった。

	平均身長	平均体重	平均年齢	戦績	順位
日　本	170	64	27	2勝2敗1分	4位
ブラジル	178	72	26	5勝	1位
フランス	178	70	25	4勝1敗	2位
ルーマニア	176	69	28	2勝2敗1分	3位
チュニジア	175	67	26	1勝4敗	5位
キューバ	172	69	25	5敗	6位
優勝国ノルウェー	176	69	27		

＊日本、ルーマニアは得失点差

■大会運営

ブラジル協会長が常に各会場を回り、細かい指示を出しCグループに関しては何ら大きな問題なく運営され、Cグループ全ての国が同じホテルに宿泊し食事関係も問題なかった。

常に会場には10名程のチアリーダーがおり、ブラジル独特のサンバのリズムでハーフタイム、作戦タイム時に各試合で会場を盛り上げる演出が行われていた。

■テクニカルミーティング

プラウゼ氏（ドイツ）がCグループのテクニカルミーティングのオフィシャルで出席。

タイムアウト3回、ハーフタイム15分　ユニホーム確認等無事終了した。

多田団長、佐久間ドクター、西窪が出席。

■試合運営

Cグループはタワコリ氏（イラン）が常に管理し、軽度の負傷（演技）に関する遅延行為に関しては厳しく管理しており、規定時間内で終了する運営が目に付いた。

気候的な問題で発汗でフロアーが濡れる事が多く、フロアーを拭く時間での遅延があった事は致し方ないと感じた。

その他の運営に関してはなんら問題なかった。サンパウロのメイン会場にはIHFムスタファ会長が常に観戦していたが、地元ブラジル戦以外の観客は少ない状況であった。

■レフェリー

全てIHFプラウぜ氏がレフェリー割り当てを管理。

アジアからは日本（池渕、檜崎ペア）、カタール、中国（女性）がノミネートされた。

日本（熊本）で開催された男子世界選手権の後藤、清水氏、クロアチアで開催された女子世界選手権での浜田、小笠原氏以来の3組目の選出でCグループの試合も担当し、臆することなく試合を管理しタワコリ氏より高い評価を受けていた。

■確認

来年度ブラジルで開催される予定の世界学生選手権の確認を行った。ブラジル協会長、開催地（ブルメナル）サンタカタリーナ州会長両氏と会い、間違いなく開催する事を確認し日本協会、学連に報告した。また、来年度ジャパンカップの来日の依頼をCグループに投げかけ、チュニジアチームリーダーのアリカセム氏から早急の案内送付の依頼をされた。

予選ラウンド、決勝ラウンドの詳細は黄ヘッドコーチの報告を参照して頂くとし、細かい試合内容には触れない。黄ヘッドコーチの「ボールも動く、人も動く」の強化方針下組織的なDF、気迫あふれる攻撃でフランス、ブラジルには敗退

したが、ルーマニアとの残り３秒での引き分けゴール、チュニジアとの１点差の勝利は、従来後半失速するパターンを走力等で補い 60 分間戦う体力強化が表現できた内容で、評価に値する戦いであった。

また、ハーフタイム 15 分は日本にとって体力を回復する時間になった事も間違いない。

決勝ラウンド１回戦のデンマーク戦も終始日本のリズムで試合が展開できたが、後半残り３秒で同点とされ第１延長で１点差で敗退した。死闘を演じた 70 分間の戦う体力、気力はオリンピック世界最終予選につながる戦いであった事は間違いない。

黄ヘッドコーチの戦術・戦略と栗山、小藪両コーチの GK 指導、CP 指導が調和し、クレバーな采配と木目細かい分析で選手をコントロールしたスタッフの力量は評価できた。また、選手のケアに日々務めて頂いた佐久間、高野内両氏には心からお礼申し上げたい。

今回団長として参戦いただいた多田団長のご配慮で、ブラジル三井物産の方々に応援体制、食事関係等と細かいお心配りを賜り、選手が心置きなく戦えた事も今回の戦績に繋がったと感謝いたしております。また、ブラジル三井ガス様がスポンサーとなっていただき、サポートいただいたことも大きな力となりました。

在サンパウロ日本国総領事館の鈴木領事も、奥様が大阪教育大学でハンドボールをされていたとの事で応援いただき、また、京都洛北高校男子ハンドボール部出身の見目様が、仕事の関係でサンパウロにおられ会場に足を運んで頂き選手に暖かい激励の文章まで頂き、感謝いたしております。

また、兵庫県出身の大久保様が、終始ボランティアとしてチームをサポート頂いたことも報告いたします。

今回の戦いでは、日本選手のボールへの執着心、またスピードとテクニックは各国と比較しても絶対に劣っているとは感じない内容であった事は、帯同した私だけの感想ではなく同組の各国関係者、IHF 役員からも高い評価をいただいた。

ドーピングに関しても、日本も厳しくルール化されてきているが、当然のごとく違法性を訴える担当者の話を聞き選手への指導のあり方を再確認した。

今大会の全ての試合内容、各国の戦術を細かく分析し、課題を明確にして日本ハンドボール協会全体の課題として取り組み、ロンドンオリンピック世界最終予選と今後の日本ハンドボールの将来を見据えた強化に努めたい。

終わりになりましたが、国内合宿、海外遠征等多大なご支援いただいたスタッフ、選手の所属の関係各位に心よりお礼を申し上げると共に、応援いただいた全国のハンドボール愛好家の皆様に深く御礼申し上げご報告といたします。

第 20 回女子世界選手権について

女子代表ヘッドコーチ　黄　慶泳

大会の準備

■直前合宿

１．日程　11 月 15 日（火）から 28 日（月）

２．強化ポイント

①トータルフィットネス強化

②チーム戦術の理解 & 確認

＊ディフェンスシステムの変化力

6：0 コンパクトな形から色々なシステムに変化できる戦術の準備

＊速攻も含めて攻撃でスピードプレーからチェンジオブペースの意識付け＆チームプレーの連係力強化

③試合感覚の維持 & 大型選手との戦いに対する対策（男子高校と練習ゲーム）

第 20 回世界選手権大会

■予選ラウンド

C 組：Japan, Romania, France, Brazil, Tunisia, Cuba

◆第１戦（敗）　日本　22 － 41　フランス

＊試合前ミーティングポイント

①チームの勝利の為に犠牲、感謝の気持ち、謙虚さを忘れないこと。

②大きな舞台に徐々に慣れてきたときは強いが初戦の入り方で苦戦してきた。立ち上がりの集中力＆爆発力が大事である。

③アジア予選後に取り組んできたことを今日の試合で発揮することに集中。

- オリンピック世界最終予選の戦い方を探す意味でも方向性は大事であることを認識
- 守りのシステムの瞬間的な変化
- チェンジオブペースの中で、攻め方の共有、状況判断力アップ、ミスを減らす
- 攻撃の攻め方で、飛ばしパス、リターンパス、パスフェイントの導入＆ PV との連携力アップ

④スターティングメンバー：上町、小野澤、植垣、東濱、巻（藤井と攻守交代）、早船、藤間

＊評価＆課題

①全体的に力負けしたのは事実である。その中で、前半中盤から追い上げた流れは、この日の試合で唯一よい時間帯であった。

②無理な中央攻撃でミスした後に両サイドでの逆速攻による失点が多かった。

③戦術的なミスもあり、相手の守りが中央でラインを上げて全体の流れを寸断した時に対応できなかった。同時にアウト攻めの意識が足りなかった。全体的に止まってパスをするから次のスペースへの動きが出来ない。

④守りに関しては

- 視野外攻撃に対応できない状況が多かった

・利き手守りの不徹底もある
⑤基本的に体も心も動かなかった。

◆第２戦（敗）　日本　24－32　ブラジル

＊試合前ミーティングポイント
①人が動く、ボールが動くハンドボールを表現する。
②守りが勝負である。
・利き手を徹底して守る
・２名のCBの起用で攻撃の流れが変わるのを認識すること
・右利きの９番が入ったら右側の展開が多くなる
・左利きの22番が入ったら左側の展開が多くなる
・日本は
・５：１変則ディフェンスからクロスアタックで対応(両方)
・瞬間的なマンツーマン
③攻撃は
・オフザボールプレーの徹底（人が動く、ボールが動く）
・センターバックラインが上げてくるときの対応がキーポイント
④スターティングメンバー：上町、石立、東濱、永田、巻（藤井と攻守交代)、早船、田代
＊評価＆課題
①前半立ち上がりから相手の速攻に押し込まれての失点が多く、前線での早い段階で勢いを止められなかった。
②攻撃でオープニングでの横に流れるクロスプレーが多くなると真ん中に集まってしまう傾向があるので、クロスの中でも縦を攻める必要がある。
③守りでどうしても高めに前線を上げなければならない時間帯で、体格を利用した個人突破＆視野外プレーで苦しんでいる。しかし、そこが日本の機動力と運動量＆組織力でカバーしなければならないところでもある。

◆第３戦（引き分け）　日本　28－28　ルーマニア

＊試合前ミーティングポイント
①守りは４：２変則ディフェンスからスタートして、状況に応じてシステムを変えながら戦う。
②相手が低い６：０スライドディフェンスをするので大きなクロス攻撃をしながら揺さぶり、瞬間的な広いスペースを狙う。
③ライン際での失点は必ずスローオフ攻撃に素早く展開すること。
④スターティングメンバー：上町、石立、東濱、永田、巻（藤井と攻守交代)、早船、藤間
＊評価＆課題
①６：０ディフェンスから瞬間的にプレッシャーをかけて前線のラインを上げたときに間のカットインプレー＆視野外プレーの防御が課題。
②センターラインを超えたところでの状況判断＆チェンジオブペースの感覚がまだ確実に体得できていない。
③攻撃で揺さぶりの中でフェイント突破は成功する局面が多くあったが、ダブルブロッキングの上でのロングシュートはブロックアウトされてしまう。もっと横に揺さぶりながらディフェンダー１人との勝負が出来るようにする事。

◆第４戦（勝）　日本　32－31　チュニジア

＊試合前ミーティングポイント
〈チュニジア攻撃〉
①センターバック20番を中心とした攻撃展開のバリエーション確認
②10番＆18番を使ったシステムチェンジ攻撃のパターン確認
③20番のマンツーマンのときの攻め方確認
④20番の個人技によるステップシュート＆フリースロー攻撃注意
⑤６対５の攻め方確認
〈チュニジアディフェンス〉
①６：０スライドから20番の牽制＆インターセプト注意
②６：０から20番が瞬間的に５：１への変化への対応
③18番のトップから３：２：１ディフェンス
④６対５状況での５：１変則ディフェンスの傾向がある
〈日本の対策〉
①６：０スライドディフェンスから瞬間的な20番へのマンツーマンからプレス
②ダブルポストへのシステムチェンジの場合でも20番＆10番へのマンツーマン
③逆速攻の戻りの場合でも20番のマンツーマン
④ルーマニア戦より高く上げてくるから横の流れは間合いを十分に取ること＆縦の攻め意識と裏を攻めるコンビネーションプレーが大事になってくる。
⑤スターティングメンバー：上町、石立、東濱、永田、巻（藤井と攻守交代)、早船、田代
＊評価＆課題
①瞬間的な20番へのマンツーマンは成功していたが、次のシューターである10番のマークミスが前半多くあった。
②前後半合わせて数的な有利な状況で流れを寄せ付けることができなかったのでゲームマネジメントに問題があった。
③最後まで戦うチーム雰囲気は非常に良いと感じる。

◆第５戦（勝）　日本　32－24　キューバ

＊試合前ミーティングポイント
①17番＆９番のロングシュート＆フェイント突破注意
②６：０ディフェンス＆３：２：１ディフェンスの攻め方整理＆対策
③日本の対策
・６：０スイッチディフェンスから
・17番への高いスイッチ＆マンツーマン
・９番の利き手守り
・徹底して失点後のスローオフ攻撃で仕掛ける
・視野外プレー、大きなクロスプレー、システムチェンジ攻撃が有効的である
④スターティングメンバー：藤間、藤井、早船、永田（植垣

と攻守交代)、東濱、小野澤、上町

＊評価＆課題

①今日の試合の結果によって決勝トーナメント進出が出来たのは収穫が大きい。

②今までの試合で体力の消耗量が多かったこともあり，選手交代を激しくした。それによってゲームが安定しないでミスも多く発生していた。チームとしての基本の徹底が必要である。

■ Eight-Final Game

◆日本　22－23　デンマーク

＊試合前ミーティングポイント

①相手チームのゲームストラクチャーを理解

- 9M ラインを中心にスライド＆スイッチディフェンスを駆使
- 速攻は徹底して４：２システムのフォーメーションを維持しながら展開
- 攻撃は
  - センターを中心に両バックプレーヤが絡んでくる
  - ３：３システム形でポジションチェンジ攻撃を組み立てる
- センタープレーヤが守りで交代できなかったら５：１変則ディフェンスで対応

②日本の対策

- 大きなポジションチェンジの時＆センター＆ポストの２対２からスタートするときの防御の区別を明確にする
- ６：０ディフェンスの中で
  - クロスアタック
  - マンツーマン

③今日の試合は今までの実績を考えたら負けても何も失うことは無い。下を向いて勇気を失い諦めた戦いをすると今まで流した汗と努力、これからのオリンピックに行きたい夢を失ってしまうことを認識すること。
何があっても最後までベストを尽くす。

④今日の試合は余裕があるメンバー交代は無い。交替して入る選手の役割＆再起用される選手の準備とメンタルの強さが大きなポイントの一つでもある。

⑤スターティングメンバー：上町、石立、東濱、永田、巻（藤井と攻守交代)、早船、田代

＊評価＆課題

①トータルでロースコアに持ち込んだ部分は戦術、戦略としては成功していた。

②後半の残り５分で３点リードを勝ちきれないのはゲームマネジメント力がまだ足りないことであるし、ここ一点が欲しいときの攻撃力は今後の課題である。

今後の取り組み＆課題

オリンピックアジア予選後に続いて日本リーグ真最中の代表チーム活動で、多くの怪我人を抱えての合宿スタートとなった。直前合宿の流れとして、先ずはオリンピック予選敗戦後であるので選手団の雰囲気を整えることと、ハードなトレーニングより怪我の状況を考慮しながら戦術の合わせを中心に行った。特に重点を置いたのは速攻と攻撃の展開で、スピードプレーの中でもチェンジオブペースの感覚を持つ事とチームの状況判断の基準を理解すると同時に、連携力を高めることであった。そして男子高校チームとの練習ゲームを通してゲーム感覚を維持するところでもポイントを置いてトレーニングした。

大会に入って初戦のフランス戦は長距離移動の疲労と時差の問題もあったか、体が動かない中でストレスが溜まる試合運びとなった。しかし、その後はコンディションも徐々に回復して上昇ムードで予選ラウンドを戦っていたと感じる。

大会トータルでの収穫としては、①どのチームとも選手たちがタフに堂々とした雰囲気で戦ってくれたこと②スピードプレーの中でもテンポのコントロールが出来てセンターライン超えてからのミスが少なくなっていたこと③全体的に得点力が上がってきたこと④どんな展開になっても諦めないでメンタルスタミナを持って戦っていたこと⑤守りの部分で相手攻撃の展開が始まってから自分たちのシステムを自由に変えられるようになったことである。

課題としては、①守りの部分でフェイント突破に対するカバーが遅れてラインが作れなかった場面が多くあったこと②ゲームの流れが自分たちに来た時に確実なプレーの中で相手を突き放せない場面が多くあること③ここというところで一点が取れるような攻撃力の強化(個々のシュート力も含めて)である。

今後は、日本リーグプレーオフ終了後である３月末からオリンピック世界最終予選までに、もう一度長期合宿の中で対策を徹底して練ると同時に、ヨーロッパ直前遠征を計画してチーム力を上げて行きたい。世界の各国が徹底して日本を研究してくるのは間違いないと思うので、そこをしっかり考えてオリンピック最終予選を準備しなければならないと考える。

女子世界選手権の準備に当たって各チームのご理解、ご支援頂きまして心より感謝申し上げます。何よりも日ごろよりご支援いただいている各スポンサーの皆様には改めて御礼申し上げます。特に大変な時期にもかかわらず女子代表チームの為に快く練習ゲームをして頂いた男子高校チームには、本当にありがたく思っております。今の女子代表チームを作ったのは全国の男子高校チームであることは間違いないと考えております。

色んな方々にお世話になり、もっと良いご報告が出来なくて本当に申し訳ありません。しかし、オリンピック最終予選が今年５月にはありますので、オリンピック切符を持って皆様にはご報告できるように死に物狂いで頑張ります。

引き続き女子代表チームの活動にご支援いただきますようお願い申し上げまして、ご報告と致します。

ありがとうございました。

第 20 回女子世界選手権　　女子代表　藤井 紫緒



12 月 3 日～ 18 日にブラジルで第 20 回世界選手権が開催されました。日本はフランス、ルーマニア、ブラジル、チュニジア、キューバとのグループで初戦フランスと対戦し、パワー、スピードにおいて圧倒され自分達のハンドボールをすることができず試合終了。次のブラジル戦では前半に離された点数を縮めることができず 2 連敗。しかし、日本のハンドボールが機能し始め、ルーマニア戦ではスピード、機動力を生かし日本が残り 2 秒で同点に追いつき試合終了。そして、予選通過をかけたチュニジア戦では一進一退の攻防が最後まで続き、同点の状態で残り 4 秒、日本が 7m スローを取り 1 点差で日本が勝利。予選最後のキューバ戦では、単純なミスが続き相手のペースに何度も持っていかれたものの勝つことができ、予選 4 位で通過することが出来ました。

決勝トーナメント 1 回戦は D グループ 1 位のデンマークとの試合。日本は得意の機動力を活かし前半リードで折り返したが、後半に入って相手のロング、ポストと多彩なオフェンスで日本は逆転を許すが、日本も流れを取り戻し終盤まで日本のペースで残り 5 分 3 点リードとなるが、ここから日本は足が止まり、一気にデンマークの追い上げを受け、残り 6 秒ポストシュートが 7m スローとなりこれを決められ同点で延長戦へ。延長前半、日本は退場者を出した状態からスタート。デンマークに連取されるが、日本も踏ん張り 21 対 22 で折り返す。延長後半はこの 1 点を取り返すことができず試合終了となり、勝てる試合をものにすることが出来ませんでした。

この大会で 1 点の重み、1 点を争う戦いをものにする事が出来なかった自分たちの弱さを実感しました。しかし、世界と対等に戦えるという自信も得ることができました。

今大会の経験を生かし、世界オリンピック最終予選に向けて日本代表の誇りを持ち精進してまいりますので、今後ともご声援よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今大会出場にあたりご尽力いただきました協会関係者の方々、温かく応援してくださった全国のハンドボール愛好者の皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

試合結果・戦評

【予選ラウンド日本戦・戦評】

■ 12 月 3 日

フランス　41（18 － 13，23 － 9）22　日本

前半立ち上がり、日本は足が止まり相手の体格に対して消極的なプレーが目立ち 0 対 3 とされる。ようやく 5 分過ぎに藤井のカットインで点を取り、落ち着きを取り戻したかった日本だが、フランスの強力なバックプレーヤー陣のロングシュートに対応出来ず 3 対 9 とされ、ここでタイムアウトを要求。タイム後日本は機動力が発揮されリズムを取るが、フランスも譲らない展開が続く。終盤、日本連続得点で締め 13 対 18 で折り返す。

後半、日本は OF ミスから速攻につなげられる最悪なパターンを連続でしてしまい、一気に点差を広げられ 7 分過ぎで 14 対 24 とされる。タイムを要求して立て直したい日本だったが、フランスの堅い DF の前に攻め手を欠き、さらに点差を広げられ 13 分過ぎには 16 対 30 とされる。その後もメンバーを入れ替えリズムを掴もうとする日本だったが、終始フランスのリズムのまま結果 22 対 41 で終了。

得点：藤井；6 点、植垣；4 点、東濱・石立；3 点、上町；2 点、黒木・小野澤・山野・巻；1 点

■ 12 月 5 日

ブラジル　32（16 － 12，16 － 12）24　日本

前半、日本はブラジルの強引に突破をしてくる OF に対して受け身になり 1 対 3 とリードを許す立ち上がりとなる。中盤以降は一進一退の攻防が続くが、日本は相手の退場による得点チャンスをものにできず、リズムを掴めないまま 12 対 16 で折り返す。

後半、一人少ない状態でスタートした日本は、ここを 0 点でしのぎきる。しかし直後退場を取られると、ここからブラジルに一気に点数を許してしまう。中盤、日本 DF は組織的に相手の終盤は退場が重なり点差を広げられる形となり、結果 24 対 32 で終了。

得点：上町；7 点、東濱・永田；4 点、藤井；3 点、山野・石立・早船；2 点

■ 12 月 6 日

日本　28（12 － 13，16 － 15）28　ルーマニア

前半立ち上がり、日本は得意の機動力を活かしルーマニアに対抗し、お互い譲らない展開となる。中盤、日本はリードできる局面でイージーミスをしリズムに乗りきれない時間帯が続く。終盤ルーマニアに連取され 12 対 13 で折り返す。

後半日本の OF からのスタート、藤井のロングですかさず追いつくと、ここから中盤まで一進一退の攻防が続く。しかし、昨日同様日本は退場者を出してしまい試合の主導権をルーマニアに持って行かれる。20 分過ぎ 6 点差とされ苦しい展開になったが、日本はここから驚異の粘りを見せ点差を徐々に詰めていく。28 分過ぎ 3 点差まで追い上げ、さらに







相手の退場を重ねて誘いルーマニアが4人となる。ここからルーマニアOF陣が立て続けにミスをし、残り30秒27対28となる。日本DFはオールコートでプレッシャーを掛けミスを誘いボールを奪うと、残り2秒早船が速攻で決め同点に追いつき試合終了。

得点：藤井；11点、上町；5点、東濵・早船；4点、石立；2点、植垣・永田；1点

■12月8日

日本　32（16－16，16－15）31　チュニジア

第4戦目は予選突破に向け共に負けられない試合。前半、日本はスタートからチュニジアの司令塔20番に対して変則的にマンツーマンDFをしかけ揺さぶりにかかる。これが功を奏しチュニジアOFはリズムを崩す。序盤は日本ペースで進んだが、チュニジア10番の突破・ロングが決まり始めると、そこから一進一退の攻防が続き、中盤以降もお互い譲らず同点、1点差の展開が終盤まで続き16対16で折り返す。

後半、立ち上がり日本DFは10番に変則的にマンツーマンDFをしかける。前半同様、相手のリズムを崩すと主導権をとった日本が中盤19分過ぎには26対22とリードを奪う展開となる。しかし、ここで日本は相手の退場時のチャンスを活かしきれず、逆に連取され2点差に追い上げられる。終盤30対27と3点リードとするが、イージーミスが重なり3連取され30対30に追いつかれる。残り1分を切ったところで藤井が決め31対30。しかしチュニジアもすぐに点を奪い返し31対31の同点。残り30秒日本ボールとなり最後のチャンスで7mTを奪うと、藤井が決めタイムアップ32対31で勝利。

得点：藤井；11点、石立；7点、東濵；5点、黒木・早船；3点、永田；2点、上町；1点

■12月9日

日本　32（16－9，16－15）24　キューバ

前半、日本は幸先よく2連取しリズムを掴むかと思われたが、すぐに2連取され2対2とされる。日本はリズムを取れない中でもキューバのイージーミスにも助けられ徐々に点差を開き16対9で折り返す。

後半、立ち上がり日本は4連取し20対9と一気に点差を広げるが前半同様、逆に3連取され20対12となる。ここからお互い点を奪い合う展開となり、日本はストレスのたまる試合運びをしてしまう。終盤まで締まらない展開が続き、結果32対24で終了。

得点：上町；10点、藤井；7点、早船；4点、石立；3点、植垣・山野；2点、伊藤・若泉・東濵・永田；1点

【Eight Final　1回戦】

■12月12日

デンマーク　23（9－11，10－8／3－2，1－1）22　日本

決勝トーナメント1回戦は強豪デンマークとの対戦。前半、日本は得意の機動力を活かし相手エースの動きを止め、デンマークOFを単調なOFにさせる。日本はOFでも機動力を活かしリズム良く展開し、デンマークDFを翻弄する。しかし、デンマークも徐々に対応してくる。中盤以降一進一退の攻防が続き11対9で折り返す。

後半、日本は前半同様機動力を前面に出しデンマークに立ち向かうが相手も後半は修正をはかり、ロング、ポストと多彩なOFを見せ日本は逆転を許す。ここで流れがデンマークに持って行かれると思われたが、GK田代が好セーブでリズムを再び取り戻すと再逆転をする。終盤まで日本ペースで進み、残り5分3点リードとなる。ここから日本は足が止まり、一気にデンマークの追い上げを受ける。残り6秒ポストシュートが7mスローとなり、これを決められ19対19の同点で延長戦へ。

延長前半、デンマークに連取されるが、日本も踏ん張り21対22で折り返す。後半は、互いに譲らず1点ずつ取り合い、残り1分日本ボール。日本は最後のOFを決めきれず22対23で終了。

得点：藤井；8点、上町；4点、植垣；3点、東濵・石立・早船；2点、山野；1点

▼7－8位決定戦

クロアチア　32（14－12，18－17）29　アンゴラ

▼5－6位決定戦

ブラジル　36（18－11，18－ 9）20　ロシア

▼3－4位決定戦

スペイン　24（ 9－ 9，15－ 9）18　デンマーク

▼決勝

ノルウェー　32（19－13，13－11）24　フランス

東日本大震災復興支援「とどけよう　スポーツの力を東北へ！」

平成23年度

第63回全日本総合ハンドボール選手権大会



男子はトヨタ車体が初優勝、女子はオムロンが2年振り14回目の優勝を飾る！

最終順位

■男子　優勝：トヨタ車体（初優勝）
　　　　2位：大同特殊鋼
　　　　3位：大崎電気・日本体育大学

■女子　優勝：オムロン（2年振り14回目）
　　　　2位：ソニーセミコンダクタ
　　　　3位：北國銀行・広島メイプルレッズ

表彰

■男子　最優秀選手賞　富田恭介（トヨタ車体）
　　　　最優秀監督賞　野村広明（トヨタ車体）

■女子　最優秀選手賞　藤井紫緒（オムロン）
　　　　最優秀監督賞　黄　慶泳（オムロン）

第63回全日本総合ハンドボール選手権大会の運営に携わって

神奈川県ハンドボール協会理事長　小見 幸男

2011年末の12月21日（水）から25日（日）まで、横浜国際プールで第63回全日本総合ハンドボール選手権大会が開催されました。今大会は初めての試みとして、東京都ハンドボール協会、神奈川県ハンドボール協会、日本協会の三者で実行委員会を作り協議を重ねて開催に漕ぎつけました。

選手諸君には満足な練習会場も用意できず、余計なご苦労をお掛けしたことをお詫びいたします。

始まるまでは観客が来てくれるだろうか、男子決勝戦はNHKの生放送もあるので非常に心配でした。ところが蓋を開けてみると連日3,000人から4,000人の観衆で賑わったことは嬉しい誤算でした。

試合内容も素晴らしいものがありました。男女とも大学勢の活躍が目立ちました。特に男子の日体大が日本リーグ勢の豊田合成、湧永製薬に競り勝ち、準決勝では大同特殊鋼相手に最後まで諦めないプレーを見せてくれました。大学勢の健闘に賛辞を送りたい。また決勝戦では、前日の試合で鼻骨骨折したトヨタ車体の門山選手が、鼻をテープで固定しただけで出場し、ファイト溢れるプレーを見せてくれました。初優勝おめでとう。

女子も接戦が続き、準決勝ではオムロンと北國銀行の1点差の競り合いや、延長戦に持ち込まれたソニーセミコンダクタと広島メイプルレッズの試合など、見応えのあるゲームが多く見られました。優勝したオムロン、おめでとう。

本大会の開催にあたり、ご指導いただいた日本協会、東京協会の諸氏に感謝申し上げると共に、補助員を務めてくれた関東学生連盟の学生諸君に感謝します。また、今大会では特に、会場の横浜国際プールをはじめ横浜市、横浜市教育委員会、横浜市体育協会、都筑区教育委員会など、地元の多大なご協力を得てどうにか成功裡に終えることができました。心から感謝申し上げます。

さあ、あとはオリンピック出場のみです。日の丸をつけて出場する選手ばかりではなく、若い力が一丸となってオリンピック最終予選で頑張ってくれることを期待するばかりです。どうか今年が良い年になりますように。

男子優勝：トヨタ車体

優勝の声

トヨタ車体ハンドボール部監督　野村 広明

はじめに、第63回全日本総合選手権大会 ～とどけようスポーツの力を東北へ～を開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまに心から感謝します。

トヨタ車体ハンドボール部は、創部45年にして初の全日本総合を優勝することができました。これもハンドボール部をここまで築いてくれた歴代のOBの方々や会社のバックアップ、そして従業員のみなさんやファンの熱い応援があったからこそ成し遂げることができました。

今大会については2回戦からの参加で、対戦した早稲田大学、トヨタ紡織九州、大崎電気、大同特殊鋼との試合は全てにおいて勝利するのは困難でした。

その中でもトヨタ車体が優勝できたのは他のチームよりも少しだけ、チームでやろうとしているハンドボールを最後まで全員で徹底できたからではないかと思います。

私たちが今回重要視したことは、今年度キーワードにしてきた『全力』を尽くし、トヨタ車体らしさ【①すべてにおいて真摯であること②自分たちの強み（フィジカル・走り）を活かすこと③チーム（仲間）のために戦うこと】を出すことです。この重要視したことを今大会のメンバーから外れサポートにまわってくれた選手や、メンバーに入ったベテラン・中堅・若手選手達が、それぞれの役割を理解し最後の試合が終るまで全力を尽くしてくれました。その結果、決勝の大同特殊鋼との試合は今までで一番と言って良い程の最高のゲームができました。選手達には本当に感謝します。

今回は優勝できたものの、トヨタ車体の目指すべきハンドボールが100％できたかといえばそうではありません。反省する点はたくさんあります。





又、他のチームも一生懸命にトレーニングし、相手チームを分析していますので、次に優勝するのは難しいでしょう。しかしこれに負けず、トヨタ車体らしさに更に磨きをかけ、3月のプレーオフではトヨタ車体が目指すハンドボールを100％発揮し、初の日本リーグ優勝に向け全力を尽くします。

最後に私たちは「スポーツだからこそやれること」を常に意識し、全国のみなさんがトヨタ車体の試合を見て『勇気や元気』そして『感動』したよと言ってもらえるようなチームにしますので、これからもトヨタ車体 BRAVE KINGS への熱い応援をよろしくお願い致します。





女子優勝：オムロン

第63回全日本総合選手権優勝について

オムロンハンドボール部ヘッドコーチ　黄　慶泳

第63回全日本総合選手権大会においては、２年ぶり14回目の優勝ができましたことを心から喜んでおります。

チームとしては、昨年度の国体優勝以来苦しい戦いが続く中で、本当に渇望していた優勝だったので素直に嬉しい気持ちです。この優勝を勝ち取るために選手たちの努力があったのは間違いありませんが、何より沢山の方々のご声援のお陰だと思っております。オムロン会社の皆様方を始め、試合会場まで足を運んで熱い声援を送ってくださった皆様方には、改めて御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今回の大会に参加する際には、日本代表チームが世界選手権から帰ってきてから直ぐだったので、チーム練習が十分に出来ていない状況で沢山の不安がありました。



しかし、チームはその不安を跳ね除けて見事にコートの中で一つになって戦ってくれました。

その原動力となったのは、西窪GM代行よりチームに対して目標を明確に提示してくださったこと、私自身が代表チームの活動の際に母体のチームをしっかり纏めてくれた久野キャプテンの努力があったからだと思います。

チームの組織力を最大限発揮できるように導いてくださった西窪GM代行、チームをしっかりと一つに纏めてくれた久野キャプテンには感謝の気持ちで一杯です。

大会中は毎試合接戦が続く厳しい展開となりましたが、交代選手の成長と活躍が今回優勝の原動力となったのは嬉しいことであると考えます。

準決勝である北國銀行戦の後半途中で藤間選手が負傷退場した時に、見事にオムロンゴールを守ってくれた山中選手と、決勝戦のソニー戦の後半途中から稲葉選手が見事に攻撃の流れを変えてくれたことが印象に残ります。スターティングメンバーの頑張りは勿論、交代選手の活躍と成長がチームの勝利の原動力となっているのは何より嬉しいことであります。

今シーズンの残りタイトルである日本リーグ優勝は高い目標であります。今回の優勝に満足することなく、更なるチームの成長を求めて努力しなければならないと考えます。

より強い気力・組織力を持って戦えるように取り組みますので、引き続きオムロンチームのご声援を宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。



試合結果・戦評

【男子】

▼1回戦

関西大学	28	(11－16, 17－ 9)	25	長崎社中
早稲田大学	35	(17－13, 18－13)	26	JHAジュニアアカデミー選抜
Honda	35	(14－10, 21－14)	24	明治大学
日本体育大学	50	(25－ 9, 25－10)	19	HC岡山

▼2回戦

北陸電力	32	(10－18, 17－ 9, 3－1, 2－2)	30	関西大学
トヨタ車体	36	(15－ 9, 21－ 6)	15	早稲田大学
Honda	23	(10－13, 13－ 8)	21	琉球コラソン
日本体育大学	28	(14－11, 14－13)	24	豊田合成

▼準々決勝

大崎電気	49	(23－13, 26－12)	25	北陸電力
トヨタ車体	37	(18－15, 19－15)	30	トヨタ紡織九州レッドトルネード
大同特殊鋼	31	(18－ 9, 13－16)	25	Honda
日本体育大学	29	(15－15, 14－13)	28	湧永製薬

▼準決勝

トヨタ車体　39 (19－17, 20－18) 35　大崎電気

準決勝第1試合は日本リーグ暫定1位の大崎電気と、暫定3位のトヨタ車体の日本リーグ勢の対戦。昨年度の決勝カードが今年度の準決勝で対戦することになった。大崎電気豊田のステップシュートで試合は動き出す。トヨタ車体は司令塔センター木切倉のカットインで応戦し、鶴谷のサイドシュートで逆転。その後、両チームのDFの激しい当たりに両チームとも連続得点をあげられないまま試合は展開していく。11分の門山の退場をしのいだトヨタ車体は香川のミドルシュートなどで3連取9対5とリードを広げる。大崎電気は東長濱のステップシュートで反撃開始、夏山の気迫あふれるDFからのカットや宮崎のロングシュートで得点を重ね22分から怒涛の6連取で16対13と逆転に成功する。対するトヨタ車体は26分にエース門山のこの試合初得点をきっかけに4連取で再逆転。19対17のトヨタ車体2点リードで前半を終了する。

後半永島のポストシュートで1点差に詰め寄る大崎電気だが、トヨタ車体は粘り強くパスをつなぎ、大崎電気の高いDFの間を割ってシュートまで持ち込む。大崎電気は7分過ぎの夏山の退場もしのぎ豊田のサイドシュート小沢のサイドシュートで追撃する。トヨタ車体は10分過ぎに富田、13分に藤田が退場しピンチを迎えるが、GK坪根の好セーブで苦しい場面を乗り切り一度も追いつかれることなく試合は後半戦へ。15分過ぎからは両チーム一点ずつ取り合う展開が続くが23分にトヨタ車体藤本のサイドシュート、速攻での3得点で試合の流れをつかむ。大崎電気も森のポストを中心とした攻撃を仕掛けるが、終盤に連続得点できず、39対35でトヨタ車体が昨年の決勝戦での雪辱を晴らし勝利した。

大同特殊鋼　35 (19－15, 16－17) 32　日本体育大学



男子準決勝の2試合目は本大会最多の14回優勝を誇る大同特殊鋼と準々決勝で日本リーグ勢4強の一角である湧永製薬を破った日体大の対戦である。ゲームは日体大元木の強烈なブラインドシュートでの先制、直後大同はクイックスタートから武田がミドルを返す幕開けとなった。大同の堅い5－1DFに対して日体大は元木を軸に自らのシュート、ポスト川口へのパスなどで得点。一方大同は速攻とクイックスタートを確実に決めて中盤までは互角の展開。17分過ぎ大同は山城、末松らがよく走りサイドシュートを決めて4点差をつける。その後日体大は信太、川口が渾身のシュートを決め、19対15と大同の4点リードのままで前半を終了。

後半日体大は8分過ぎに藤江、土井、信太らがスピードを活かして4連取し、一気に同点に追いつく。しかし大同は慌てることなく、14分過ぎに野村、武田のミドル、地引の速攻で再びに4点差とする。残り3分日体大は起死回生を狙い、オールコート・マンツーマンに出るが及ばず、35対32で大同が勝利した。素晴らしい試合であり、大同は最後までDFが安定し、攻撃も速く、日本リーグの意地を見せた。最後に日体大の大健闘に最高の賛辞を送りたい。

▼決勝

トヨタ車体　32 (13－15, 19－14) 29　大同特殊鋼

男子決勝は自己の持つ最多優勝回数を更新して15度目の優勝を狙う大同特殊鋼と昨年に続いて2度目の決勝進出を果たし、今回こそ初優勝を目指すトヨタ車体の対戦となった。日本リーグプレーオフの進出を決めている両チームであるが、今期の日本リーグでの戦績は大同の1勝1分である。池渕・檜崎の両国際審判の笛により、車体のスローオフでファイナルは開始された。車体が富田のポストシュートで先制すると、大同は野村のロング・ミドル、千々波のポストで2分過ぎまでに3連取し、大同3対1とリードする。流れが車体に傾いたのは10分過ぎ、門山のカットイン、鶴谷の速攻、木切倉のミドルなどで4連取して流れが車体に傾き、14分には8対8の同点とする。その後一進一退が続き、大同1点



リードで迎えた28分過ぎに大同はチームタイムアウトを請求。直後山城から棚原のスカイプレーが鮮やかに決まり、大同が15対13としてそのまま前半を終了。

後半は序盤10分まで1点を取り合い、また両チームのGK（車体：甲斐、大同：東）がノーマークシュート阻止を連発するタイトなゲームとなった。中盤以降、車体はボールがテンポよく回り始め、選手も縦に進み、次第にペースを握るようになって15分鶴谷のサイドシュートで21対21の同点に追いつく。その後車体は香川のロングとミドル、高智のカットインとロングで引離しにかかるが、大同は千々波の速攻、地引のカットインで応戦する。25分過ぎに車体は門山のロングと速攻、鶴谷の速攻で3連続得点し、29対25と4点をリードして勝負の大勢を決めた。そのままトヨタ車体がリードを守り、悲願の初優勝を果たした。決勝戦でトヨタ車体は最後までスピードあふれるハンドボールを継続し、チャンピオンに相応しい姿を披露してくれた。

【女子】

▼1回戦

大阪教育大学	29（11－10，18－10）20	H C 高 山
三重バイオレットアイリス	32（17－ 8，15－14）22	日本体育大学
大阪体育大学	27（12－11，15－13）24	H C 名 古 屋
香川銀行T・H	33（16－ 7，17－ 7）14	JHAジュニアアカデミー選抜

▼準々決勝

北 國 銀 行	34（18－10，16－12）22	大阪教育大学
オ ム ロ ン	37（17－ 9，20－ 6）15	三重バイオレットアイリス
広島メイプルレッズ	29（14－12，15－12）24	大阪体育大学
ソニーセミコンダクタ	30（15－15，15－10）25	香川銀行T・H

▼準決勝

オムロン　25（16－14，9－10）24　北國銀行

第1試合は日本リーグ暫定2位の北國銀行と、暫定1位のオムロンの日本リーグ勢の対戦。東濱のカットインで先制したオムロンが、北國銀行GK田代の好セーブに阻まれ追加点があげられない。その間に北國銀行はエース上町のロングシュートやGK田代からのパスを受けた若松が速攻を決めるなど序盤を5対1でリードする。その後オムロンDFが機能し始め、GK藤間を中心に北國銀行のシュートを防ぎ、石立のカットイン、勝連のサイドシュートなどで7対7の同点にもちこむ。北國銀行は投入した仲宗根がミドルシュートを決め流れを取り戻そうとするが、一進一退の攻防が続く。26分過ぎに北國銀行上町の退場を期に高田の連続速攻で3連取したオムロンが16対14とリードして前半終了。両チーム警告を使い果たし退場者合わせて3人の激しい試合となる。

後半両チームGK、DFの守りあいの試合となり、10分過ぎで両チーム合わせて3点にとどまる。その後、北國銀行は上町の7mスロー、ステップシュート、樋口のカットインで同点に追いつく。オムロンは負傷退場のGK藤間に代わった山中が、サイド、ロングと立て続けに守りオムロンのムードを盛り上げ、要所で勝連がサイドシュートを決める。残り10分で北國銀行上町が3回目の退場で失格となると流れは一気にオムロンへ。藤井がロングシュート・ステップシュートを決め、ゲームメイクに徹していた石立がミドルシュートを決め4点差に突き放す。北國銀行は若松のサイドシュートで反撃し、石野のミドルシュートで一点差まで追い詰めるがタイムアップ。堅い守りとチーム全員でもぎ取った7mスローを確実に決めたオムロンが、25対24で決勝進出を決めた。

ソニーセミコンダクタ　34－31　広島メイプルレッズ
（11－9，13－15／2－2，2－2／1－3，5－0）

第2試合は日本リーグ暫定3位の広島メイプルレッズと、暫定4位のソニーセミコンダクタの日本リーグ勢の対戦。広島のスローオフでゲームは動き出す。先制点は、ソニー山野のミドルシュート。互いに、一進一退の展開となるが、ソニーは5対4から、GK飛田の好セーブと、山野の得点など一気に5連続得点で6点まで差を広げる。一方の広島も宋の速攻など3連続得点、2連続得点で反撃し、前半はソニーが2点差をつけて終了。

後半立ち上がり、広島はGK堂面のキープから速攻による4連続得点で逆転する。ソニーは田中のミドルで応酬するも、再び3連続得点を許し点差が広がる。一進一退となるが、19分、ソニーは黒木などの連続得点から同点に追いつき、山野の得点で逆転に持ち込むが、広島もすぐさま追いつく。ラスト1分、同点の攻防が続きソニータイムアウトを請求するも得点ならず、逆に20秒前には広島が請求するもこれも得点に繋がらず、24対24で延長となる。第一延長は、互いに点の取合いとなり、第二延長へ。第二延長前半で、広島キーパー堂面の好守備で2点差を付け、決定かと思われたが、第二延長の後半、ソニーはGK飛田の好守もあり、5連続得点で一気に試合を決め決勝に進んだ。ソニー山野は15得点、広島宋も11点を上げる活躍であった。

▼決勝

オムロン　29（15－10，14－10）20　ソニーセミコンダクタ

昨年に続いてオムロンとソニーセミコンダクタの対戦と



なった。5分過ぎまで1対1のスコア。ロースコアゲームを予想させたが、直後5分過ぎにオムロンは藤井のカットイン、石立のミドルシュート、高田の速攻などで6連取し、主導権を握った。ソニーはオムロンのフットワークのよいDFに対し、縦に進むことができず、12分過ぎの山野のミドルシュートが2点目であった。オムロンは藤井のロングシュートで得点を重ね、ソニーは高橋の速攻、サイドシュートで応酬する。21分過ぎにソニーは錦織のポスト、山野のミドルなどで4連取し、オムロンはチームタイムアウトを請求する。直後オムロンは藤井のカットイン、勝連のミドルなどで連続3得点をあげ、15対10とオムロンの5点リードで前半を終了。

後半、ソニー田中、張の連続得点で始まり、オムロン石立の退場などで流れはソニーに傾むく。オムロンは藤井のこの日11点目となるステップシュートで応戦するが、ソニーは田中―張のコンビネーションプレーで追い上げる展開。15分過ぎにソニーはオムロン藤井にマンツーマンを仕掛けるが、直後オムロン石立がカットインで得点するなど、一進一退の攻防が続く。20分過ぎにオムロンは永田が退場するが、ソニーの攻撃をGK藤間が立ちはだかり、攻撃では、稲葉投入で藤井・石立のバックプレーヤー三人のスピードあふれる攻撃からのポスト金へのパスが要所で決まり、残り7分で26対19と点差を広げる。ソニーは残り時間10分で張のミドルシュート1点に抑えられ、オムロンは高田のサイドシュート、永田のポストシュートなどを確実に決め、勝利を引き込みに29対20でオムロンが勝利した。

オムロンが雪辱し2年振り14回目の優勝を果たした。



全日本総合選手権：サイドストーリー

今回の会場となった横浜国際プールは、神奈川県横浜市都筑区にある国際規格の水泳用プールを持つ施設の名前である。プールなどの水泳施設の他に屋内競技のための体育室などもあり、かながわ・ゆめ国体会場として1998年完成。

水泳以外には、11月以降3月まではプールを塞ぎ、仮設の床を敷設（97m × 39m）して他の競技に利用を拡大しており、2011年よりプロバスケットbjリーグの横浜ビー・コルセアーズのホームアリーナとして使用、又、テニス日本リーグの会場としても使われている。ハンドボールの全国大会の利用では、1991年（第51回全日本総合選手権・女子の部）に会場となっており、今回が2回目である。指定管理者の横浜市体育協会では、国際プールの主たる競技として、水泳・テニス・バスケットに続きハンドボールを加えるべく、積極的な招致を図っている。今回も、横浜市体育協会の「ハマスポニュース」（http://www.hamaspo.com/）にて、大会初日には地域に対して積極的な観戦の呼び掛け、そして、大会終了日には大会結果を速報するなど多大なサポートを戴き、大会を機に相互に一層の協調により、ハンドボールの普及に発展することを期待する。



国際プール入口の案内



大会会場（準々決勝まで２面利用）

平成23年度 高松宮記念杯 男子第54回・女子第47回
全日本学生ハンドボール選手権大会

男子：日本体育大学が２年振り 21 回目の優勝
女子：大阪体育大学が初優勝

最終順位

【男子】
優　勝：日本体育大学
準優勝：早稲田大学
３　位：明治大学
　　　　関西大学

【女子】
優　勝：大阪体育大学
準優勝：大阪教育大学
３　位：武庫川女子大学
　　　　日本体育大学

大会を振り返っての総評

岩手県ハンドボール協会理事長　岡市　武

平成 21 年度から全国高等学校選抜大会（22 年度は大震災の影響で中止）、今夏には北東北インターハイを開催した岩手県花巻市に於いて、花巻市総合体育館・花巻市民体育館・富士大学スポーツセンターを会場として 11 月２日から６日までの５日間にわたり、高松宮記念杯男子 54 回・女子 47 回平成 23 年度全日本学生ハンドボール選手権大会が開催されました。

開会式セレモニーで、伝統芸能の継承を部活動として取り組んでいる花巻農業高等学校の鹿踊り、男子準決勝ハーフタイムでは岩手県立大学生によるダブルダッチ、最終日の男子決勝のハーフタイムでは北上翔南高等学校新体操部に演技を披露してもらい大会に華を添えて頂きました。北上翔南高等学校新体操部の演技の際に音響のトラブルがありましたが、日本体育大学選手の手拍子が会場全体に広がり、動揺していた新体操部員の背中を押してくれたお陰で、最後まで演技することができました。会場の皆様に感謝申し上げます。

今大会には、岩手出身選手が多く登録されており、チームの主力として活躍している選手も見られ、故郷に錦を飾る場面を期待して主管する岩手県協会としましても楽しみの多い大会でした。しかし、誠に残念なことに出場辞退があったことが挙げられます。詳しい事情は把握していませんが、スポーツを通して人間性を高める指導の大切さを改めて思い知らされた感があります。

大会には連日多くの観客が訪れ、学生が展開する迫力あるプレーに魅了され、満足顔で会場を後にしていました。男子は東高西低、女子は西高東低の様相となりましたが、男子は西日本学生選手権大会を制した関西大学がその力をいかんなく発揮し関東のベスト４独占を阻止し、女子では優勝した大阪体育大学を最後まで苦しめた日本体育大の活躍が特筆されます。男子決勝は関東対決、女子決勝は関西対決となり、お互い手の内を知り尽くした相手だったのでやりにくい面はあったと思いますが、スピード、パワー、テクニック等最高のプレーを披露して頂き、観客、応援団を満足させる試合内容でした。その結果、男子は日本体育大学が２年振り 21 回目の優勝、女子は大阪体育大学が初優勝で大会の幕を閉じました。

今大会も全国高等学校選抜大会、インターハイ同様に岩手県体育協会スポーツ医・科学委員会トレーナーの方々にご協力を賜りましたことに敬意を表し感謝申し上げます。また、全日本学連医科学員会の永井正之氏には、お忙しいところコンディショニング講習会を開催して頂き御礼申し上げます。

最後になりましたが、開催するにあたり多大なご支援・ご指導賜りました日本協会、全日本学生連盟、東北学生連盟、協賛各社、また、遠路応援にお越し頂いた保護者の皆様、大会を盛り上げるために多くの方々にご協力・ご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

次回開催の九州ブロック大会の成功をご祈念申し上げます。

戦　評

男　子

■準決勝

日本体育大学　31（17－13，14－12）25　明治大学

互いのシュートミスが続いた序盤、17番寺田のサイドシュートで明治大学が先制。徐々にエンジンが掛かり始めた日本体育大学リードで試合が進む。2点差に追い上げられた日本体育大学がタイム請求後、12番木村のファインセーブが光り、4点差まで引き離す。明治大学は11番堤の連取で一時追いつこうとするが、17対13と日本体育大学がリードを保ったまま前半を終える。

後半開始早々、9番大倉のポストシュートで明治大学が追い上げを図るが、肝心な場面でのパスミスが出たり、日本体育大学GK木村の好守に得点を阻まれ波に乗ることができない。一方、日本体育大学は3番川口の3連取、信太のミドルシュートなどで後半16分に26対19と突き放す。ここで日本体育大学がメンバーを入れ替える間、明治大学は寺田、8番池辺らが得点を重ね、後半22分に3点差まで詰め寄る。26対24の場面で、日本体育大はスタメンをコートに戻し、信太、川口らの得点で再度5点差まで広げる。残り3分はGK木村、12番荻原の両GKが好守を見せ、31対25で日本体育大学が勝利し、決勝へ進出した。

早稲田大学　32（11－10，21－14）24　関西大学

前半立ち上がりは互いに固さが見られシュートミスが続いたものの、関西大学7番中嶋が先制シュート決める。その後、両チームのGKがナイスセーブを重ね互いに譲らず一進一退の攻防が繰り広げられ、11対10と早稲田大学1点リードで前半を折り返す。



後半のスタートを4人で戦う苦しい展開となった早稲田大学は7番久保が得点したものの、関西大学は17番白井らで3連取し逆転に成功する。その後両者一歩も引かぬ展開だったものの、11分過ぎから早稲田大学が5連取して17分に7点差とする。関西大学は9番興田の7mスロー、6番湯川らの得点で追い上げるが、終盤早稲田大学は1年生10番久保、13番森田らが得点し関西大学を突き放し決勝へ駒を進めた。

■決勝

日本体育大学　36（16－16，20－17）33　早稲田大学

試合は、前半早稲田大学8番牧山のサイドシュートを皮切りに3連続得点し幸先の良いスタートをきった。日本体育大学は10分まで早稲田大学GKの攻守に阻まれ得点を伸ばすことができない。それでもキャプテン2番信太の3連続得点で応戦し、24分過ぎには信太の連続得点で12対12の同点に追いつく。その後、互いに流れを渡さず16対16で前半を終了した。



後半開始早々、日本体育大学19番石橋のサイドシュートが決まり、この試合初めてのリードを奪う。しかし、早稲田大学もチーム最多の10得点を挙げた6番久保のカットインなどで主導権を取り返す。その後も1点を争う展開が続いたが、24分過ぎに日本体育大学10番元木、信太の3連続得点で27分に34対30と4点差をつけた。早稲田大学は最後まで諦めず粘りを見せ反撃するが及ばず、36対33で日本体育大学が2年振り21回目の優勝を果たした。

女　子

■準決勝

大阪教育大学　25（13－7，12－12）19　武庫川女子大学

両チームとも立ち上がり固さが見られたが、大阪教育大学が身長を生かした6－0ディフェンスから速攻につなぎ確実に得点を重ねた。対する武庫川女子大学もフットワークを使ったディフェンスで相手の攻撃を阻み、速攻につなげる展開で16分まで6対5と大阪教育大学1点リードの接戦であった。そこから大阪教育大学は8番松村のサイドシュート、5番乾のロングシュートが決まり点差を広げる。一方、武庫川女子大学はセットオフェンスで大阪教育大学の長身のディフェンスをなかなか崩せず苦しみ、速攻のチャンスもシュートを阻まれ、大阪教育大学6点リードで前半を終えた。

後半に入り、武庫川女子大学は3番岡田の連続シュートが決まりペースを掴む。しかし、大阪教育大学の身長を生かした固いディフェンスが光り、武庫川女子大学のセットオフェンスをことごとく阻む。大阪教育大学は速いパス回しから4番翁長のポストシュートが決まり得点を重ねる。武庫川女子大学もGK平良の連続セーブなどで粘りを見せるが、堅い守りでペースを掴んだ大阪教育大学がリードを守り25対19で勝利し、昨年に続き決勝の舞台へ駒を進めた。

大阪体育大学　21（13－11，8－9）20　日本体育大学

序盤は互いにスピードのある攻撃で一進一退の展開となる。12分から大阪体育大学8番田邉のサイドシュートなどで3連取し3点差となったところで日本体育大学がタイムア

ウト。ここから日本体育大学の足が良く動き、固いディフェンスから速攻で２連取し１点差に詰め寄る。その後は日本体育大学に退場者が出るが、良く凌ぎ大阪体育大学の２点リードで前半を折り返す。

後半開始直後、大阪体育大学が３番河田のカットインシュートなどでリードを５点と広げる。しかし、日本体育大学は積極的に前に出るディフェンスとGK山根の好セーブで大阪体育大学の得点を止めると、２番小稲、６番高橋の速攻が決まり逆転に成功する。日本体育大学が２点リードしたところで大阪体育大学がタイムアウトを取り、落ち着きを取り戻す。終盤大阪体育大学は河田の７ｍスローと11番角南のシュートで連取し同点とすると、最後は河田から田邉へのスカイパスが決まり再逆転に成功し２年連続の決勝進出を決めた。

■決勝

大阪体育大学　18（12－9，6－5）14　大阪教育大学

２年連続同じ顔合わせになった女子決勝は、初優勝を狙う大阪体育大学が９番高山のシュートで先制すると、連覇を狙う大阪教育大学はエース５番乾が同点シュートを決め、その後、３番増田の７ｍスローなどで序盤に２点リードする。ここから大阪体育大学は３番河田のミドルシュートを皮切りに得意の速攻から６連取し主導権を握る。一方、大阪教育大学は増田のカットインシュートなどで応戦するが、12対９で大阪体育大学のリードで前半を終える。





後半、両者の持ち味であるディフェンスが機能し、ロースコアの展開となる。大阪体育大学は後半立ち上がりに８番田邉がシュートを決め４点差とするが、大阪教育大学９番平良、増田にシュートを決められ２点差と追い上げられる。なおも大阪教育大学は再三ノーマークショートのチャンスをつくるが、大阪体育大学GK坂田の好セーブにより追いつくことができない。最後は大阪体育大学が田邉から高山へのスカイプレーを決め、18対14で初優勝を飾った。

個人表彰

【男子】	【女子】
■優秀選手賞	■優秀選手賞
CP 信太　弘樹（日体大）	CP 河田　知美（大体大）
CP 元木　博紀（日体大）	CP 塩見　綾香（大体大）
GK 木村　昌丈（日体大）	CP 田邉　夕貴（大体大）
CP 久保龍太郎（早稲田）	CP 増田　寛那（大教大）
CP 馬場　佑貴（早稲田）	CP 翁長和佳子（大教大）
CP 寺田　弘太（明治大）	CP 岡田　好美（武庫川）
CP 中嶋　　翔（関西大）	CP 高橋　佑奈（日体大）
■特別賞	■特別賞
CP 川口健太郎（日体大）	CP 鎌田奈津子（日体大）
CP 熊谷　　昴（早稲田）	GK 坂田知英美（大体大）
■最優秀監督賞	■最優秀監督賞
松井　幸嗣（日体大）	楠本　繁生（大体大）

優勝チームの声

男子優勝：日本体育大学

日本体育大學主将　信太弘樹

平成23年11月２日から６日まで、岩手県花巻市で行われた全日本学生選手権大会で優勝できたことを大変嬉しく思うと同時に、松井先生の下で伝統のある日本体育大学の主将として優勝できたことを光栄に思っています。

今年は関東学生春季リーグ戦２位、秋季リーグ戦では優勝したものの、両リーグ戦とも早稲田大学に負けている事や、主力メンバーの怪我もあって、全日本学生選手権に向けて不安材料もありました。しかし、昨年の決勝で負けた悔しさを忘れず、１年間走るトレーニングを積んできたことが私達、日体大の絶対的な自信になったと思っています。他の大学に負けないくらい走り続けてきた結果、体力だけでなく心も強くなったことは間違いありません。私達は、１年間通して走り込みをしてきましたが、特に印象に残っている事は春、夏の合宿で何度も倒れそうになり、痛い足を我慢しながら頑張って練習してきたことです。今考えてみれば、あの苦しい走り込みの日々があったからこそ日体大の「走るハンドボール」が部員の１人１人に身につき、全日本学生選手権優勝に結びついたと思います。優勝した瞬間は４年間の苦労が込み上げ、嬉し涙が止まりませんでした。皆で苦しい練習を積んできた日々を振り返りながら、分かち合えた喜びは忘れられません。

私は、４年生最後の学年で主将を務めさせて頂き、優勝できたことを誇りに思います。優勝できたのは、他の４年生を始め、チーム全員、ご指導して下さった松井先生、そして今日まで支えてくれた保護者の温かい応援、日体大関係者の皆様のおかげだと思っています。後輩たちには、日体大の伝統である「走るハンドボール」をこれからも継承してもらい、全日本学生選手権連覇を目指して努力を重ね、精進してほしいと願っています。



女子優勝：大阪体育大学

大阪体育大学女子ハンドボール部主将　田邉夕貴

3月11日に発生しました、東北地方太平洋沖地震と津波により被災された皆様にお見舞い申し上げます。今も復興活動が行われている中、全日本学生ハンドボール選手権大会を開催して頂いたことを心より感謝致します。

この度、私達、大阪体育大学女子ハンドボール部は（以下、大体大）11月2日～6日まで岩手県花巻市にて行われました高松宮記念杯男子第54回・女子第47回、平成23年度全日本学生ハンドボール選手権大会において優勝という結果を得ることが出来ました。

大体大の女子は過去に三度の決勝進出を果たしましたが、優勝することが出来ませんでした。その先輩方の悔しさを胸に、今回の大会に臨みました。決勝までの3戦は、自分達の持ち味の守って速攻のスタイルがなかなか発揮出来ず、苦しいゲームとなりました。特に準決勝の日本体育大戦では、後半ラスト10分で2点差で負けている状況の中で1点を返し、同点ゴールを決め、そして決勝点を入れて、逆転勝ちという試合展開になりました。決勝戦は、昨年の屈辱を晴らすべく、大阪教育大学との対戦でした。前半は、12対9と大体大が3点リードで折り返すと、後半は両チーム共、なかなか得点に繋がらず、10分過ぎからの10分間は得点が止まり、苦しいゲーム展開となりました。それでも、粘り強く守り、そして攻め、ゴールの瞬間に辿り着きました。勝利を確信した大体大応援団は、試合終了1分前から59、58、57とカウントダウンを始め、試合終了の笛が鳴ると、全員が抱き合い喜びました。そして楠本先生がガッツポーズをし、涙でくしゃくしゃになった顔で私達の元に来られた時、涙が溢れてきました。楠本先生を胴上げする、その目標がやっと叶った瞬間でした。楠本先生が大体大に来られて2年、始めは期待と不安でいっぱいでした。でも、それは楠本先生も同じ気持ちだったのかもしれません。私達に本気でぶつかり、一生懸命指導して下さる楠本先生、また、これまでに大体大を築いて来られたOG・OBの皆様、大学関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。この今回の結果に満足することなく、これからも部員一同、日々精進していきたいと思います。ありがとうございました。



厚生労働大臣賞

第9回日本車椅子ハンドボール競技大会

宮城フェニックスが４連覇を達成！

総　評

大会委員長　小西 博喜

厚生労働大臣賞第９回日本車椅子ハンドボール競技大会が 11 月 19、20 日に和歌山県立体育館で開催された。この大会は障害者スポーツの一環としての「車椅子ハンドボール」を楽しむ生涯スポーツとして、社会的要請に応えるための責任と役割はきわめて大きいと考えられる。そのため、「車椅子ハンドボール」が社会的理解を得て、感動を共感すると共に、「思いやりの心」「心の福祉」の充実を図っていくことであり、これはすべての障害者スポーツの目指すところである。

本年は、東北大震災があり、復興を目指しながら参加されたことについて、宮城車椅子ハンドボール連盟及び選手の皆様には、感謝と敬意を表したい。

優勝した宮城フェニックスは、大震災の影響で練習量も少なく、そのため、例年のような試合運びのスピード感はやや落ちたように見受けられた。しかし、宮城は豪快なシュートを決めて、４連覇を達成したのは見事。また、ドリーマーズも、昨年までのスピード感や思い切ったゴール前のシュート力に欠けていたように感じられた。決勝戦の宮城フェニックスとドリーマーズが、互角に戦ったことは、賞賛を呼んだといえる。

打倒宮城を目指して、地元和歌山 WSSK のゲーム内容は、個々の選手の特徴を生かし、予断を許さないゲーム運びは、緊張感の中で真剣さが張り詰めており、一喜一憂する雰囲気は場内を沸かす好ゲームであった。７位のパッチワーク徳島の活躍も話題であり、大会経験も十分ではないが、攻防の切り替え、シュート力など技術的にも工夫が見られた。また、徳島の練習量の多さが、ゲームにも表れていたのは良かった。来年度の活躍を期待したい。

来年度は、滋賀県彦根市で開催される予定になっており、多数の参加を期待し、熱戦を待ちたい。

試合結果

【フレンドリーの部】

■決勝

岩出ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ教室Ｂ　7（３－３、４－３）6　岩出ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ教室Ａ

幸先よく岩出Ｂが先取点をあげた。岩出Ａも積極的にシュートして、前半は３対３と互角。後半、両チームとも健闘したが、岩出Ｂが辛勝した。

【競技の部】

■準決勝

宮城フェニックス　14（８－６、６－７）13　和歌山 WSSK

前半は、ポスト攻撃の和歌山に対し、宮城の高いディフェンスが功を奏し、ブロックプレイを利用したサイド攻撃で前半２点のリードで折り返す。後半は互いに点の取り合いとなったが、和歌山は２連取して１点差に追い上げる健闘を見せた。そして、12 分には７ｍスローを得て同点に追いつくチャンスを得たが、宮城・GK 勝又の好守で阻止され得点には至らなかった。さらに宮城エースの佐藤が個人９点目のゴールをあげて、14 対 12 とし、１点差で逃げ切った。好ゲームであった。

ドリーマーズ　19（13－２、６－２）4　京都伏見スパローズ

ドリーマーズ真下はチームでも抜群の得点力を持ち、また、山本、篠原の両ゲッターを支えるコンビプレーは宮城に劣らぬ攻撃力を持っているのが心強い。さらに上手な車椅子操作により堅いディフェンスを発揮し、京都伏見のミスを誘って有利なゲーム運びとなり、大差をつけワンサイドゲームで終わった。

■３位決定戦

和歌山 WSSK　20（10－３、10－２）5　京都伏見スパローズ

前半は、和歌山 WSSK は内田を中心に得点を重ね、一方、京都伏見は寺内を中心としたパス回しで応戦した。後半は、和歌山 WSSK の GK 中の好守でさらにリードを広げ、得点差の大きい結果となった。

■決勝

宮城フェニックス　17（６－６、11－６）12　ドリーマーズ

優勝戦は、昨年に続いて同じ顔合わせで、決勝戦にふさわしい激しいゲーム展開となった。前半、宮城は長身を利した佐藤を中心として、ドリーマーズのシューターを阻止した。また、ドリーマーズも接触プレーで積極的に動いて手堅く守り、両者互いに譲らず、６対６の同点で折り返した。後半、ドリーマーズは相手ポスト攻撃を阻止するため、６ｍラインを詰めて反撃のチャンスを待った。しかし、宮城の GK 勝又の好守に阻まれ、宮城佐藤のロングシュートなどで７分には 12 対８と４点のリードを保った。対するドリーマーズも真下、篠原の強引なシュートで１点差まで詰め寄ったが、試合運びの巧さもあって宮城は５点差をつけて振り切った。ドリーマーズの力強いプレーが光ったものの、４連覇を目指す宮城の落ち着いたプレーが功を奏した一戦でもあった。

【障害者の部】

■決勝

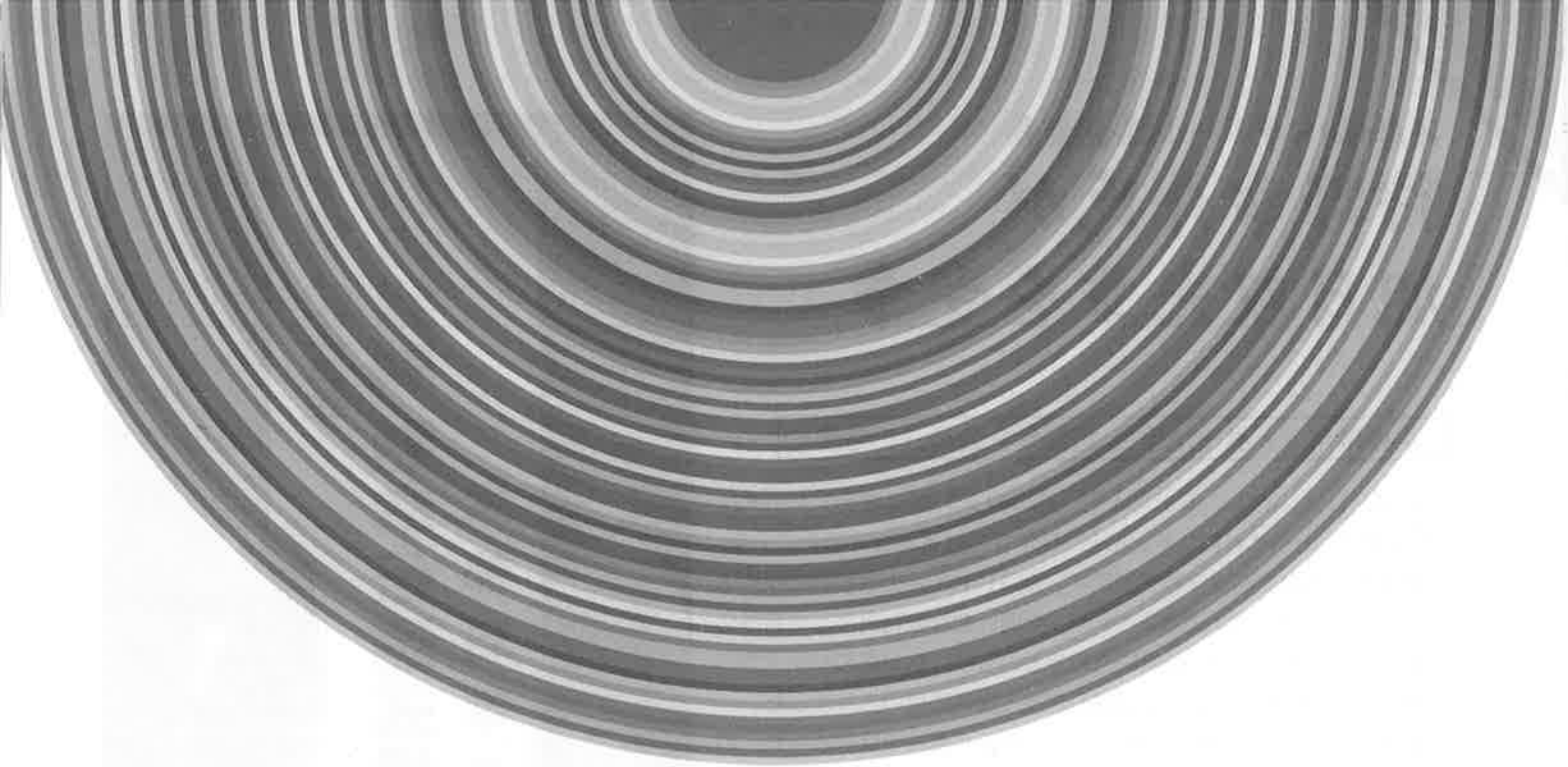
和歌山 WSSK　11（７－３、４－４）7　ネルフ

前半、練習量の多い和歌山ペースで試合を運ぶ。前半９分まで和歌山の川合を中心とした互角の攻防を続けた。しかし、和歌山の内田のコンビシュートで得点が開いた。後半は、一進一退の攻防で接戦となったが、ネルフは前半の点差が追いつけず、練習量に勝る和歌山が振り切った。









兵庫県ハンドボール協会会長

狩野幸介氏が旭日双光章を受章



兵庫県ハンドボール協会 狩野幸介会長［ご略歴］

狩野会長は、昭和6年1月1日、熊本県玉名郡北村大字上白木に16番地町にお生まれになり、昭和30年3月日本体育大学をご卒業、同年4月から公立高等学校実習助手、翌31年3月には教員に採用され、平成2年3月定年退職までの35年間、教育公務員として高等学校教育並びにスポーツの振興に務めるとともに、兵庫県のハンドボール競技の草分け的存在として競技の普及・振興に尽力されました。

熊本県立玉名高等学校在学中にハンドボール競技をはじめられ、昭和25年の第1回高等学校選手権大会に出場するなど活躍されました。大学時代は、関東春秋リーグ戦、東西対抗戦、全日本総合選手権、全日本室内総合選手権優勝、また、教員チームとして全日本教職員選手権大会で優勝、さらには国民体育大会に5回出場するなどチームを引っ張るエースとして輝かしい成績を収められています。

また、ご自身の競技者としての経験を生かした部活動指導者としては、全国高等学校総合体育大会に9回出場させ、特に昭和33・35年には2位、昭和32年には3位、昭和36年第16回国民体育大会では優勝に導くなど強い信念と豊かな経験に培われた指導力をもって大いに成果を上げられました。

兵庫県ハンドボール協会では、昭和34年から理事、昭和40年常任理事、平成13年から副会長、平成19年から会長、平成10年から（財）日本ハンドボール協会評議員と要職を歴任される中で、ハンドボール競技の普及や競技力の向上に努めるとともに、アテネオリンピックアジア予選神戸大会をはじめとする国際大会の開催や全国大会を開催誘致し、その大会の競技役員として大いに手腕を発揮され、大会を成功裏に導かれました。

中でも、昭和63年全国高等学校総合体育大会兵庫大会、平成15年アテネオリンピックアジア予選神戸大会、平成18年のじぎく兵庫国体等、本県で開催された国際大会・全国大会では、日本ハンドボール協会の役員との強いパイプを生かしながら、競技運営の中心的な役割を果たされるとともに、のじぎく国体のハンドボール競技において、兵庫県が天皇杯を獲得するなど大会を成功に導かれました。

また、昭和53年国際審判員の資格を取得し、昭和57年7月テラモカツプ国際大会に審判員として参加、昭和62年から全日本審判指導員、平成4年からは同委員長を務め、国際的な視野に目を向けた取り組みは、競技力の向上に成果を上げげたと大きく評価されています。

これらの功績により、平成2年3月、兵庫県知事から教育功労者表彰、平成4年5月、財団法人兵庫県体育協会長から体育功労賞、平成21年11月、兵庫県知事から県スポーツ賞、平成22年10月、文部科学大臣から生涯スポーツ功労者表彰、そしてこのたび叙勲されました。

（兵庫県ハンドボール協会）

長崎県ハンドボール協会会長

石井通義氏が
旭日双光章を受章

旭日双光章

H23.11.3 長崎新聞掲載

県ハンドボール協会長

石井(いしい)　通義(みちよし)さん(80)

＝長崎市橋口町＝

指導者の熱意サポート



「昨年80歳で他界した妻の弥生に受章の喜びと感謝を伝えたい」と語る石井通義さん

人生の半分以上で県ハンドボール協会の役員を務めてきた。「競技力の向上は熱心な指導者たちのおかげ」と現場へ足を運び、活動しやすい環境を整えるよう心掛ける。44年間、この姿勢は変わらない。

1969年長崎国体で競技庶務部長を担当。その数年前から県協会に携わった。それまではハンドボールと無縁の公立中教諭。徐々にその魅力にはまり、協会運営に尽力し続けた。20年以上前から、本県ハンドボール界は中高生を中心に全国トップレベルの競技力を維持。競技関係者も「気配りの人。現在の成績があるのは石井会長の支えも大きい」と信頼を寄せる。

ただ、この受章はゴールではない。本県の一大イベント、2巡目長崎国体が3年後に迫っているからだ。「協会一丸となって本県の男女総合優勝に貢献したい」。それが、すべての人への恩返しだと思っている。（黒川美穂子）

平成23年11月3日　長崎新聞掲載

長年の功績

秋の叙勲が3日付で発令される。県在住の受章者は、長崎市の長崎大名誉教授、北川常廣さん(79)＝瑞宝中綬章、教育研究功労＝ら、公共の福祉などに功労があった64人。受章者の中から、長くスポーツの普及・振興に貢献した石井通義さん(80)に喜びの声を聞いた。

秋の叙勲 県内から64人

H.23.11.3 毎日新聞掲載

☆旭日双光章
県ハンドボール協会長
石井通義さん(80)
＝長崎市橋口町



競技普及・振興に尽くす

68年、長崎国体（69年）の準備で理事に就いたのが協会に関わるようになったきっかけ。当時、ハンドボールは県内でもマイナーで、69年国体では、グラウンドを、竹ざおに漁網を張った防球ネットで間仕切りをしてコートを造った。

元は中学教諭。選手経験はないがスポーツが好きで試合を見ながらルールも覚えた。協会では人の「和」を重んじ、競技人口の増加や普及啓発に取り組んだ。出身の岡山県から縁あって長崎に移り住んで60年以上。指導者にも恵まれ、県のハンドボールは全国で認知されるようになった。08年のおおいた国体で少年男子が4年ぶり3度目の優勝。駆け付けた県関係者から祝福された記憶が新しい。

受章は「支えてくださった皆さんのお陰。生きている限り、長崎のため微力ながら尽くしたい」。10日の伝達式には昨夏亡くなった妻の遺影とともに臨むという。【下原知広】

平成23年11月3日　毎日新聞掲載

ハンドボール競技関係の経歴

石井 通義（イシイ ミチヨシ）
昭和6年7月3日　80歳

昭和42年4月～昭和54年3月
　長崎県ハンドボール協会理事
　長崎市ハンドボール協会常任理事
昭和44年10月
　第24回国民体育大会（長崎国体）ハンドボール競技庶務部長
昭和54年4月～平成3年3月
　長崎県ハンドボール協会常任理事
　長崎市ハンドボール協会理事長
昭和54年4月～平成11年3月
　長崎市体育協会評議員
昭和54年4月～現在
　長崎県体育協会評議員
平成3年4月～平成14年9月
　長崎市ハンドボール協会副会長
　長崎県ハンドボール協会副会長
平成4年4月～現在
　長崎県ドッチボール協会副会長
平成11年4月～平成17年3月
　長崎市体育協会理事
平成13年4月～現在
　長崎県専修学校各種学校体育大会実行委員顧問
平成14年10月～平成15年3月
　長崎市ハンドボール協会会長代理
　長崎県ハンドボール協会会長代理
平成15年4月～現在
　長崎市ハンドボール協会会長
　長崎県ハンドボール協会会長
平成17年4月～現在
　長崎市体育協会副会長

《表彰》
昭和57年度：長崎市体育協会功労表彰
昭和58年度：長崎市教育委員会功績表彰
昭和59年度：長崎県体育協会功労表彰
昭和62年度：長崎県教育委員会功績表彰
平成 4 年度：長崎市・県中学校体育連盟表彰
平成10年度：日本ハンドボール協会表彰
平成16年度：長崎県民表彰
平成17年度：全国専修学校各種学校総連合会表彰（感謝状）
平成17年度：文部科学大臣表彰
平成22年度：全国防犯協会連合会表彰（防犯栄誉銅章）
平成22年度：日本ドッチボール協会表彰

フリースロー Free Throw

～でっかい夢、見たいなあ～

企画・広報委員
早川　文司

2012年を迎えた。ハンドボール愛好者の皆さんはどのような新春を迎えられましたでしょうか。

昨年は３・11、未曽有の大震災で日本中が悲しみに沈んだ年でした。ハンドボール界で日本リーグのプレーオフが中止になったほか、他の競技でも中止や延期、会場の変更などがあった。

反面、スポーツが震災地の皆さんに大きな希望と力を与えることが確信できたことも事実だ。多くの競技団体・選手らがいろいろな支援活動をしたことは、決して忘れることはないだろう。球界でも北海道での全日本社会人選手権のあと支援に出向くなど被災者に勇気を与える活動を行った。ただ、復興はまだ始まったばかり。今年もこうした活動は継続してこそ意味があるのではないだろうか。

他方、スポーツ界でのビッグニュースは、何と言ってもサッカー女子、なでしこジャパンのワールドカップ制覇という歴史的な快挙である。スポーツの枠を超え、日本中に感動と衝撃を与えた。

ハンドボール界に目を転じると、全日本実業団選手権が全日本社会人選手権として新たなスタートを切った。今後のさらなる発展を期待したいものである。

一方、出場権獲得を目指したロンドン五輪アジア予選は男女とも韓国に続いて２位となり、この時点での出場はならなかった。４、5月に予定される世界最終予選での戦いに望みをつないだ。世界最終予選はヨーロッパ勢を相手に勝負を挑むという厳しい状況である。しかし女子が世界選手権で強豪デンマークと延長戦を演じ、惜しくも１点差で敗れたが、大きな自信をつけたのではなかろうか。

この試合を見ても、ここまで注いできた強化方針が誤りでなかったことを証明しているし、戦力的にも相当レベルアップしていることは間違いだろう。

男女とも最後の力と「五輪出場」という強い気持ちを持って、いっそう戦力アップを図り、最後の戦いに臨んでもらいたいものだ。

ここまで行われた日本の団体競技における五輪出場権は、かなり高いハードルが待ち構えているようだ。とはいえ、それを乗り越えてこそ喜びはむろんのこと、日本国内に「ハンドボール」をアピールする絶好のチャンスである。一時、掲げた「あきらめない」スローガンを思い出し、すべての力を振り絞り夢に向かって突き進んでもらいたいものだ。

五輪が現実になれば、これほどでっかい夢はない。そして日本中が驚きの声を上げるだろう。代表選手、スタッフのほか関係者すべてのパワーを結集して希望を持って最後の勝負に挑んでもらいたい。みなさんといっしょにでっかい夢を見ようではありませんか。

株式会社FDR・フレンディア

さらに新しくなりました！

ドクター・水素水®

NEU PREMIUM

ノイ プレミアム



スティックを入れるだけで水素水が出来る！



ドクター・水素水は、
水に入れるとスティックから
常時水素が発生するので、
高い濃度の水素を
摂り入れることが出来ます！



6カ月間
メンテナンス
不要

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

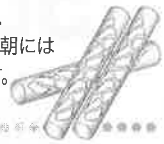
体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、体を健康へと導いてくれます。 1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

※活性酸素は、お酒、タバコ、食品添加物、化学物質、ストレス、紫外線、そして激しい運動時にも多量に発生します。

スポーツアスリートにおすすめ！

ドクター・水素水の使い方

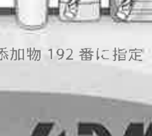
0.5～2.0ℓ用の清潔なペットボトルに水を注ぎ、スティックを入れてください。(ミネラルウォーターのペットボトルをおすすめします)。投入後2時間後には豊富な状態になりますが、より濃い水素水をお飲みいただくためには、一晩(約8時間～)放置して翌朝には水素豊富水が出来上がります。



ご提案

Q:ペットボトルに何本いれたらいいですか？

1本・・・健康維持のために
2本・・・体調のすぐれない方
3本・・・体調管理が必要な方



※水素(H_2)の作用について

水素(H_2)の働きに関して世界の大学や専門機関が学会誌に論文を発表しております。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

http://.suisosui.org/

※水素(H_2)は厚生労働省既存食品添加物 192 番に指定

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

スーパープレーを見せる
スポーツ選手たちを支え



いつでもどこでも自分の体を自分でケアする「フルタイム・セルフケア」という発想から生まれた、ITOのポータブル低周波治療器「AT-mini」。
トレーニングで損傷した筋肉に、3つの電気刺激モードが効果的に働きます。
ライバルを、そして自分をもっと超えていくために。
この小さなボディに盛り込まれた先進のテクノロジーが、
戦うあなたを力強くサポートする。

AT-mini
AT ミニ
管理医療機器(特定保守管理医療機器)〈クラスII〉
低周波治療器　医療機器認証番号 220AABZX00344A01

原寸大：W45mm×D17mm×H70mm







50g 超軽量

本体重量わずか50g(充電池含む)、サイズも極小。ITOの技術が、今までになかった超軽量・コンパクトな低周波治療器を実現しました。

12時間 連続使用

リチウムイオンバッテリーにより、最大12時間の連続使用が可能。この小ささで、スタミナも一流です。

3つの治療モード COMB / PAIN / CARE 鎮痛・治癒

- COMB〈鎮痛+治癒〉 Allタイムケア
  トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的な、鎮痛と治癒を組み合わせたケアモードです。
- PAIN〈鎮痛〉 ONタイムケア
  トレーニング中など、現場で起こった捻挫や筋肉・関節の痛みといった急なアクシデントに有効です。
- CARE〈治癒〉 OFFタイムケア
  移動中や休憩中などの体を休めている時にも、トレーニングで損傷した筋組織の治癒を促進します。

たい。

つねに最高のコンディションを保ち、ケガをした場合はより早くベストな状態へ回復することが彼らの大きな課題です。医療の分野だけではなく、こうしたスポーツ選手をサポートするために、私達の物理療法機器が活躍しています。日本を代表する選手をはじめ、さまざまなシーンで活躍する選手を幅広くサポートすること。私達は医療とスポーツの両分野で培った経験を活かして、これからもスポーツの世界を積極的に応援していきます。



お問い合せ等はこちらまで。お気軽にお問い合せください

製造 販売元 伊藤超短波株式会社 東京都練馬区豊玉南3-3-3 www.itolator.co.jp

メディカル事業部 本社：〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15 TEL:03(3812)1216(代) FAX:03(3814)4587

営業所	TEL	FAX		TEL	FAX
札幌	TEL:011(820)2830	FAX:011(842)1562	東大阪	TEL:072(242)1041	FAX:072(242)1040
仙台	TEL:022(306)7667	FAX:022(306)7688	西大阪	TEL:072(242)1043	FAX:072(242)1040
関東甲信越 第1	TEL:03(3812)1217	FAX:03(3814)4587	広島	TEL:082(506)1421	FAX:082(263)9070
関東甲信越 第2	TEL:03(3812)1218	FAX:03(3814)4587	福岡	TEL:092(573)6053	FAX:092(573)0218
関東甲信越 第3	TEL:03(3812)1219	FAX:03(3814)4587	デンタル部門	TEL:03(3812)4151	FAX:03(3814)4587
名古屋	TEL:052(701)4515	FAX:052(701)6905	臨床治験部	TEL:03(3812)4152	FAX:03(3814)4587

第９回ハンドボールコーチング研究会

第９回ハンドボールコーチング研究会は、平成23年３月12日駒澤大学において開催が予定されていましたが、前日の３月11日に大震災が発生したことにより中止となりました。

そこで研究会で発表予定であった内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は山下純平（愛知教育大学）の発表内容「ハンドボール競技におけるシュート動作に関する実践研究」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボール競技におけるシュート動作に関する実践研究

—コンパクトなスウィング技術に着目して—

山下純平（愛知教育大学保健体育講座）

キーワード：コンパクトなスウィング技術、教示内容の評価、３次元動作解析

【緒言】

2011年現在ハンドボール競技は、ゲームのスピード化を目的としたルールの改訂や、ボールを獲得することを目的にした積極的な防御戦術の採用など常に発展し続けている。また、攻撃活動においては積極的な防御戦術の影響で時間的、空間的な拘束が強まってきている傾向にある。このような競技特性の変化に伴い、ボール保持時における様々なプレイの動作時間は、より短時間であることが要求されてきている。また、日本の課題は、クイックシュートやアンダーシュートなども織り交ぜながらのトータルでの１対１解決能力を上げることであるということや、ヨーロッパの女子トップレベルのプレイヤーは、日本のプレイヤーにない多彩なシュート動作のパターンを持っているということも報告されている。このような背景から、多彩なシュート動作獲得のために、１つのパターンとして短時間でのシュート技術の特性を明らかにすることはハンドボールの競技力向上にとって重要な一要素であると考えられる。

そこで本研究はコンパクトなスウィング（以下CS）技術によるシュート動作を獲得させるための私案の教示内容について、初期段階における技術の達成度を３次元動作解析を用い評価しその課題を明らかにすることを目的とした。

なお、本研究におけるCS技術とは、通常のシュートに比べて著しくシュートの初速度が下がらないようにすることが重要であるため、先行研究による効率のよい投球方法を参考にし、「バックスウィング（以下BS）局面の動作について、ボールを上方へ直線的に、素早く、高く引き上げるイメージで行なうオーバーハンドスロー」と定義し教示した。

【方法】

1. 実験

本研究でのシュート動作は、ボールを胸前で両手で把持し、静止した状態から２歩助走でのオーバーハンドスローによるステップシュートとした。被検者に十分にウォーミングアップをさせた後、被検者が通常行っているシュート動作の試技を行った。その後、CS技術のイメージを獲得させるために、編集した動画を用い教示し、CS技術を用いたシュート動作の試技を行った。どちらの試技もボールの初速度を高めるように最大努力でシュートさせた。

2. 撮影方法

３次元動作解析システム（Mac3D、Motion Analysis社製）を用い撮影した。身体各部位の３次元座標を計測するにあたり分析点に反射マーカー（直径13mm）を両面テープを用い貼り付けた。これらの反射マーカーを、同期されている12台のHawkカメラを用い、サンプリング周波数200Hzで撮影した。

3. 被検者

これまでにCS技術に関して教示されて鍛練した経験がないK大学男子ハンドボール部員の中から選出した。また、形態、握力、長座ボール投げの体力特性の測定を行った。

表１　被検者の特性

被検者	年齢	競技歴	身長	体重	利き腕	握力	長座ボール投げ	競技レベル
A	20歳	8年	170 cm	74.2 kg	右	56.0 kg	21.9 m	都道府県大会出場、レギュラー
B	20歳	8年	173 cm	68.3 kg	右	44.2 kg	25.0 m	九州大会出場、レギュラー
C	20歳	5年	170 cm	70.4 kg	右	55.1 kg	22.2 m	全国大会出場、レギュラー
D	19歳	4年	166 cm	58.6 kg	右	57.2 kg	20.6 m	都道府県大会出場、準レギュラー
E	21歳	5年(GK)	182 cm	70.5 kg	右	52.6 kg	23.3 m	都道府県大会出場、レギュラー
F	19歳	8ヵ月	166 cm	66.3 kg	右	40.9 kg	19.4 m	なし、準レギュラー

4. データ処理

1）分析点

31点（身体29点、ボール２点）とした。

2）３次元座標の算出

実験により得られた各反射マーカーの２次元位置を専用解析ソフト（Cortex、Motion Analysis社製）を用いて計算した。

3）動作の局面分類

BS開始から完了までをBS局面、BS完了から肘の速度最大点までを上腕フォワードスウィング局面、肘の速度最大点からリリースまでを前腕フォワードスウィング局面とした。

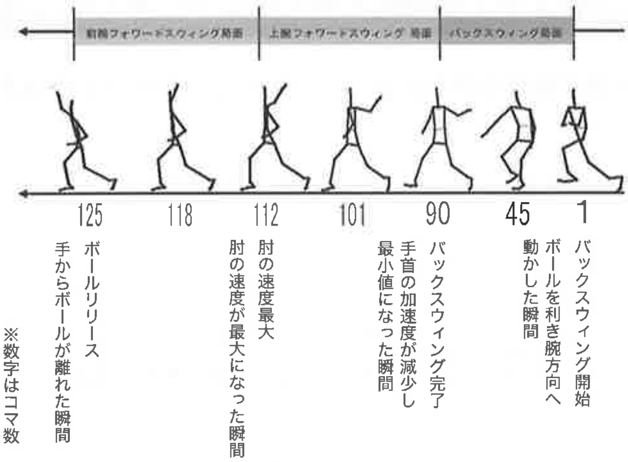


図1　局面分類

4）分析項目

分析項目は以下の通りである。①ボールの初速度②所要時間（全体、各局面）③ボールの移動距離（全体、各局面）④各局面の終了時における肩に対する肘、ボールの位置

5）考察方法

通常のシュートとCS技術を用いたシュートについて分析項目ごとに得られた値を比較し考察を行った。相関係数の算出にはピアソンの積率相関分析を用い、危険率5％未満で有意性を判定した。

【結果及び考察】

1. BS動作について

本研究は､BSに関して「上方へ直線的に」「素早く」「高く」引き上げるイメージを獲得させ実験を行った。「上方へ直線的に」とは、BS局面においてボールの高さの値が減少しないようにすることである。すべての被検者において通常の投球よりボールの最下点の高さが増加（増加率11％～100％）し、より直線的な軌道になっていた。よって、イメージを獲得することにより初期段階でもBS動作を直線に近付けることは可能であるということが明らかになった。しかし、よりBSを短時間で完了させるためには、更に直線的にしていく必要性があると考えられるため、動作を修正し、習慣化することで定着していくことが必要であると考えられる。次に、「素早く」とは､BS局面における所要時間が短いことである。被検者BCDEFは値が減少（減少率21％～40％）した。被検者Aはほぼ変化（増加率2％）がなかった。被検者Aは通常のシュートにおいても所要時間が他の被検者のCS技術のシュートより短かった。被検者Aは、本研究で定義したCS技術に近い動作を、これまでの運動経験で身につけていたと推察され、教示されたシュート動作を被検者A特有の運動共感によって通常のシュート動作と類似した動作で表現したと推察される。最後に、「高く」とは、BS局面における肩に対するボールの位置が高いことである。被検者ACEFはより高く（0.05m～0.25m）完了させることができていたが、被検者BDはより低く（-0.10m、-0.08m）完了させていた。同じBSの動作速度においてBSは「高く」完了させればさせるほど所要時間は長くなる比例の関係にあるため、「素早く」というイメージが先行するプレイヤーはより低い位置で完了させてしまう傾向になると推察される。よって、素早さを要求し教示する場合、適切なBS動作を身につけることで、BSを低く完了させないように動作を修正していくことが重要であると考えられる。

2. シュートパフォーマンスへの影響について

ボールの初速度は、被検者ABCDは値が減少（減少率2％～9％）したが、シュート動作に慣れていない被検者EFは値が増加（増加率1％、7％）した。この結果よりCS技術は、シュート動作に慣れていないプレイヤーに対して初速度に良い影響を与えることができることが示唆された。また、本実験でのシュートを9mからのシュートと想定し、9mからゴールに到達するまでの時間を、ボールの減速を無視してはいるが、次式「(動作時間)＋(9m/初速度)」で求め、その時間が短いほどパフォーマンスが高いと定義した場合、素早く投球する技術を保有していたと考えられる被検者Aは、パフォーマンスが低下（増加率5％）したが、その他の被検者はパフォーマンスが向上（減少率8％～25％）していた。この結果より、素早く投球することに慣れていないプレイヤーに対してCS技術を教示することは、シュートパフォーマンスを向上させる効果があることが示唆された。

3. 体力特性との相関関係について

握力、長座ボール投げ共に通常のシュート動作との間に有意な相関関係は認められなかったが、長座ボール投げとCS技術でのシュート動作におけるボールの初速度との間に有意な正の相関関係（$r^2 = 0.8464$、$p < 0.05$）が認められた。よって、CS技術は、上半身でボールに大きな力を加えることが重要な要素であることが示唆された。

ハンドボールコーチング研究会　大会開催要項

日本ハンドボール協会 指導委員会研究部会 ハンドボールコーチング研究会

1．大会期日

2012年3月10日（土）・11日（日）9時～12時00分　＊当日の午後　日本リーグプレーオフが開催されます。

2．大会場所

駒沢大学　〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

3．大会参加資格

本大会への参加・発表は、原則として（財）日本ハンドボール協会に所属・登録をしたものとしますが、ハンドボールの発展に努力する者であれば、研究部会の同意を得て参加・発表できます。参加・発表に際して必要な実費は参加・発表者が負担することとします。

4．参加者・発表者採用の決定

大会参加・発表の採用・不採用の決定は、参加希望者からの参加申請書をもとに、財）日本ハンドボール協会指導委員会に設置された研究部会事務局で行い、不採用の場合本人に通知します。大会で発表を希望する方は、参加申込書に発表抄録を添えて2012年2月21日までに、事務局（東海大学　栗山）宛て送付され、受理された場合とします。

5．発表時間

発表：10分　質疑応答：5分

6．研究会用抄録とその内容

抄録の内容は、ハンドボールに関する原著論文、実践研究、事例報告、研究資料等に準じた内容で未発表のものとします。

7．参加申請書、発表抄録の送付先と期限

送付先：メールアドレス：mkuriyama@nifty.com 宛てお願いします。

メール送信の際の件名に「ハンドボール研究会参加申請書」を、また「送信者名」をご記入戴き、「添付資料」で栗山まで送信してください。

メールでの送信以外は、下記住所宛て書留郵便にて送付して下さい。

〒259－1292　神奈川県平塚市北金目４－１－１　東海大学体育学部
栗山雅倫（ハンドボール研究会事務局）090－3509－9190

参加・発表申請・抄録の締め切り期日：2012年2月21日（火）

8．大会参加費用

コーチング研究会会費・大会参加費 3,000円　大学生特別参加 1,000円（研究誌の配布なし）

大会参加者は当日徴収します。（大会抄録の制作費、ハンドボール研究、研究会の連絡費、会議費などに使います）

9．大会抄録の送付

大会に参加されない研究会会員で大会抄録及びハンドボール研究を希望される方は、大会参加申請書（不参加）と 3,000円を現金書留にて送付して下さい。

10．宿泊ホテルの紹介

特に致しませんので、各自で予約してください。

ご不明な点は下記へお問い合わせください。

ハンドボール研究会担当　舎利弗学（学校法人福島高等学校）E-mail:manabu@mopera.ne.jp　TEL :090-3147-4978（携帯）

審判部報告

全日本学生選手権大会の審判員として参加して

岩手県ハンドボール協会　**中舘　豊**

日本リーグ、全日本総合選手権大会等の国内トップレベルの試合とともに国内の全国大会で見ていて面白いと言われているこの大会。今年度地元岩手で行われることもあり、ペアの多田とともに参加させていただきました。大会に先立って行われた審判会議・研修会にて、高野修審判長に本大会に臨む心構え等を講義していただき、ノミネートされた各ペアは１つのチームとして大会会期５日間を乗り切る気持ちができたものと思います。特に高野審判長は、某国際審判員が以前に話していた言葉を引用し「チームは選手と役員両チーム合わせて40名弱。観衆もそれぞれの思いの視点で観戦している。当然、大会を運営するスタッフも大勢存在する。ゲームが開始され、レフェリーの判定（笛・方向指示等）に注目する状況が繰り返される。二つのチームがあり、観衆という膨大なチームがあり、運営者のチームがある中でたった二人のレフェリーがコートでパフォーマンスを展開する。色々な立場をチームと言い換えたが、レフェリーは二人で一つのチーム（かつ平等であり、コート上では年齢差、職業、役職などは排除しなければならない）である故、ペアとしてのチームワークが重要である。レフェリーは、小さな巨人となれ‼」と（公平・中立・平等にゲーム運営に当たる、たった二人の審判員ではあるが互いに協力し合い自信をもって運営にあたろう‼という意味でしょうか）。

また、「審判団もひとつのチーム。一人のミスは全員のミス。担当以外の試合も監察し、良いところを褒め、良くなかったところを指摘し、励ましていきましょう」との熱いアドバイスで大会は始まりました。大会序盤は、差のつくゲームもありましたが、延長、１点差の緊迫したゲームも２回戦あたりからは増え、観衆を魅了し、選手の力量を充分に発揮させるためにも一つ一つの判定の大切さを感じました。

ゲーム後の反省会では、

- チームタイムアウト等は周囲にも分かるようなジェスチャーをしよう！
- 7mスロー＋段階罰の判定の際は、まずは7mスローの判定を先に！
- チームタイムアウト中はレフェリーの休憩時間ではない。両ベンチの行動を管理する態度を‼
- 今の判定は？？と思われるときの位置取りは悪いときが多いので観察する位置に注意を‼
- 早めに両チームに段階的罰則の基準が伝わるようなインフォメーションを‼
- 攻撃側のフリースローのジェスチャー後に「アドバンテージを見ていたがオーバーステップになったから」という理由でオーバーステップのジェスチャーを追加するのは紛らわしいので止めよう‼

等々がポイントとして出され、その日のゲームを観ての反省事項、そして翌日のゲームに向けての助言とステップアップのための有意義な反省会が行われました。この反省会のおかげで日に日に審判団のチームとしての纏まりも出てきたように思いました。

今大会は、普段他の全国大会出場チームのスタッフとして活躍しているペアもレフェリーとして参加しており、ベンチから見た判定、ハンドボール観等も反省会の中で意見交流できたことは大変有意義であったと思います。

個人的には、インカレを担当できるのも今回が最後ということで様々な思いをもって大会に参加しました。その中で大会前に「この笛をペアで使用してみては」と激励して下さいました大先輩K、Aペアや、男子決勝を担当させていただいた後にサプライズで我々ペアのことをアナウンスで紹介していただいた全日本学連の皆様や地元役員の皆様、控室までわざわざ足を運び労いの言葉を掛けていただいた日本協会コーチングスタッフの先生等々、大変嬉しく感謝しております。

今まで様々な試合を担当できたのも植村彰日本協会審判部長、越田義昭審判審査指導委員長はじめ日本協会審判部の皆様はじめ多くの諸先輩の熱く温かいご指導・助言等があったおかげと大変感謝しております。３月まではペアの多田とともに精一杯実践していこうと思いますし、その後は若手の審判員の皆さんに還元できるよう努力していきたいと思っています。

関係各位に感謝申し上げ報告とします。



※筆者右端

協会だより

平成23年度第2回理事会

日　時：平成23年11月12日（土）
　　　　13:30～16:00
場　所：味の素ナショナルトレーニング
　　　　センター研修室1・2
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：渡邊佳英、市原則之、多田　博、
川上憲太、大橋則一、角　紘昭、西窪勝広、
志々場修二、蒲生晴明、藤森　徹、松井幸嗣、
稲生　茂、山川博行、森安昭雄　　以上14名
監事：伊藤宏幸、近森克彦　　以上2名
特任副会長：川上整司　　以上1名
参事：齋藤仁宏、小西博喜、小島収治、
高山重雄、杉本眞一、中村博幸、佐藤公美、
佐藤喜一　　以上8名
欠席者（敬称略、名簿順）：
理事：高村誠一、江成元伸、田中　茂、
朝生和光、船木浩久（以上、委任状提出有り）、
植村　彰　（事務局）兼子、茂木
以上、出席理事14名、委任状出席5名、出席監事2名、出席特任副会長1名、出席参事8名、事務局2名
議事録署名人：
議長：渡邊佳英会長、川上憲太専務理事、
蒲生晴明常務理事、森安昭雄理事

〈理事会成立の確認〉
本理事会が理事定数20名、出席14名、書面委任5名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた3分2以上の出席のため、本理事会が成立していることが報告された。次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第3項に基づき、渡邊会長が議長となった。

渡邊会長より挨拶
先般のオリンピック予選で男女共韓国に敗れたが、世界最終予選には出場は出来る。予選大会でのマスコミ露出については、女子は最初から良い試合をしたのでマスコミに取り上げられた。一方男子は緒戦につまずいた為マスコミ露出が少なくなってしまった。何れにしろチャンスは残っている。今後の体制について検討して行く。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、渡邊議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、川上憲太専務理事、蒲生晴明常務理事、森安昭雄理事が指名され、満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．2011年日本スポーツ賞、ミズノメントール賞推薦者について
大橋総務担当常務理事より、表彰委員会での候補者選考が説明され、選抜は中止であったがインターハイ、国体を制した山口県立華陵高等学校（山口少年女子チーム）が候補者としてあげられた。ミズノメントール賞候補者については、締切までまだ時間があるので、継続して検討する。
審議の結果、全員一致で華陵高校にすることに異議なく、本件は可決承認された。

2．第63回全日本総合日本協会推薦チームについて
大橋常務理事より、日本協会推薦チームについて説明があった。
男子…明治大学（インカレ3位)、関西大学（インカレ3位)、HC岡山(ジャパンオープン3位)、JHAジュニアアカデミー選抜の4チーム
女子…日本体育大学（インカレ3位＝優勝チーム敗者)、JHAジュニアアカデミー選抜の2チーム
審議の結果、異議なく、本件は可決承認された。

3．オリンピックアジア予選結果に伴う事項について
西窪強化本部長より大会結果について報告があり、男女ともオリンピックの出場切符が取れなかったことについてお詫びがあった。世界最終予選への出場権を獲得したこともあり、現強化体制は継続されるが、併せてリオに向けた強化検討委員会をスタートさせる。
(川上専務理事より)
全日本監督について、女子は黄監督、男子は酒巻監督に引き続き委ねる。だたし12月のブラジル女子世界選手権と、来年1月末から始まる男子アジア選手権でチェックし見直しをする。西窪強化本部長の進退に関しては、男女共に世界最終予選に残った以上は結果が出るまで辞表は預かる。合せてリオに向けた強化検討委員会をスタートさせる。
まだ世界最終予選は残っているが、我々執行部の責任について今年度の評議員会に判断を仰ぐことも出てくると思う。

報告事項

1．日本協会の事業活動と課題について（中間報告）
川上専務より説明した。

2．強化報告ついて
西窪強化本部長より、女子ジュニア及びユースが来年の世界選手権への切符を獲得した事など、報告がなされた。

3．平成24年度事業計画・予算策定について
平成23年度予算執行状況（第二次補正資料）について大橋常務理事が説明した。各事業本部からの事業計画書案・予算書案の提出期日が11月末となっており、期限遵守が要請された。

4．公益財団法人移行進捗状況について
藤森常務理事が説明した。本年6月評議員会理事会で説明し、その後アンケート実施した。代表評議員を含めた検討会を9月に行った。来年2月の評議員会・理事会で改訂定款・規定の承認を得たい。
(川上専務理事)
平成25年4月新公益法人として発足したい。そのため来年4月から6月にかけて申請手続きをする計画だ。

5．スポーツ振興くじ・基金助成金について
大橋常務理事が平成24年度のスポーツ振興センター助成について説明した。

6．平成23・24年度会議日程案について
大橋常務理事が説明した。平成24年6月第1回評議員会・理事会（6月9日）の開催場所は、豊田市で予定（ジャパンカップを開催中)。

7．国際関係について
蒲生常務理事が説明した。AHF理事会・臨時総会が来年1月25日にジェッダ（サウジアラビア）で開かれる。アジアの諸大会において土壇場で参加をキャンセルする国が続出し、大変な迷惑、影響を及ぼしている。再発防止策がないものか、問題提起をお願いしたい。

8．平成23・24年度国内・国際大会日程について
大橋常務理事が説明した。

9．全国理事長会要望事項（社会人関係）について
川上専務理事が検討結果を説明した。来年2月の全国理事長会で検討結果を報告する。

10．競技規則確認他、審判活動報告について
川上専務理事より説明された。

11．普及指導部報告について
角常務理事は、日韓小学生ハンドボール親善交流会の報告並びにJHLジュニアカップについて提案がなされた。

12．日本リーグ報告
川上専務理事は、今後の日本リーグ行事について報告した。
(杉本参事)
JHLのチャレンジディビジョンの審判に関し、派遣依頼が来るのがいつも遅い。今回開催地の愛知県からは審判派遣が出来なかった。またトップレフェリーになる為の場であるという事が依頼文書に入っているが、関係者は誰も会場に来ていない。

13．マーケティング活動報告について
大橋常務理事より達成状況、TV中継実績等説明した。

14．がんばれハンドボール20万人会について
大橋常務理事が説明した。

15．2020年東京オリンピック招致について
市原副会長より現在の状況等説明があった。石原都知事を会長とする招致評議会が11月発足。立候補都市は、バクー(アゼルバイジャン)・マドリード・ローマ・イスタンブール・ドーハ・東京の6都市である。オールジャパン体制で行きたい。

16．質疑応答
省略

予定していた議案について全て終了したので、16時00分に平成23年度第2回理事会は閉会した。

スコアールーム

高松宮記念杯 男子54回・女子47回全日本学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2011年11月2日(水)～6日(日)
会　場：岩手県花巻市・花巻市総合体育館ほか

【男　子】

▼1回戦

日本体育大学(関東)	48－21	大同大学(東海)
福岡大学(九州)	29－20	函館大学(北海道)
桃山学院大学(関西)	36－26	明星大学(関東)
同志社大学(関西)	33－29	法政大学(関東)
明治大学(関東)	28－24	大阪経済大学(関西)
中部大学(東海)	28－24	筑波大学(関東)
秋田大学(東北)	不戦勝	京都産業大学(関西)
中京大学(東海)	47－17	国際武道大学(関東)
早稲田大学(関東)	35－19	立命館大学(関西)
関西学院大学(関西)	45－23	道都大学(北海道)
信州大学(北信越)	29－23	岐阜聖徳学園大学(東海)
大阪体育大学(関西)	42－25	中央大学(関東)
東海大学(関東)	29－21	福岡国際大学(九州)
国士舘大学(関東)	29－27	高松大学(中四国)
日本大学(関東)	30－22	名城大学(東海)
関西大学(関西)	41－30	富士大学(東北)

▼2回戦

日本体育大学	36－28	福岡大学
桃山学院大学	28－26	同志社大学
明治大学	30－29	中部大学
中京大学	38－22	秋田大学
早稲田大学	35－19	関西学院大学
大阪体育大学	45－28	信州大学
国士舘大学	26－24	東海大学
関西大学	31－30	日本大学

▼準々決勝

日本体育大学	33(20－15、13－11)26	桃山学院大学
明治大学	33(18－15、15－17)32	中京大学
早稲田大学	29(12－15、17－12)27	大阪体育大学
関西大学	35(16－11、19－18)29	国士舘大学

▼準決勝

日本体育大学	31(17－13、14－12)25	明治大学
早稲田大学	32(11－10、21－14)24	関西大学

▼決勝

日本体育大学	36(16－16、20－17)33	早稲田大学

【女　子】

▼1回戦

同志社大学(関西)	46－9	北星学園大学(北海道)
中京大学(東海)	29－11	秋田大学(東北)
福岡大学(九州)	27－25	日本女子体育大学(関東)
環太平洋大学(中四国)	34－15	富山国際大学(北信越)
富士大学(東北)	35－26	大同大学(東海)
天理大学(関西)	24－22	東北福祉大学(東北)
福岡教育大学(九州)	34－28	早稲田大学(関東)
東海大学(関東)	25－16	立命館大学(関西)

▼2回戦

大阪教育大学(関西)	37－22	同志社大学(関西)
国士舘大学(関東)	29－22	中京大学(東海)
武庫川女子大学(関西)	32－24	福岡大学(九州)
東京女子体育大学(関東)	20－19	環太平洋大学(中四国)
大阪体育大学(関西)	28－17	富士大学(東北)
筑波大学(関東)	29－21	天理大学(関西)
関西大学(関西)	29－26	福岡教育大学(九州)
日本体育大学(関東)	25－24	東海大学(関東)

▼準々決勝

大阪教育大学	29(18－10、11－10)20	国士舘大学
武庫川女子大学	20(12－6、8－12)18	東京女子体育大学
大阪体育大学	21(8－10、13－8)18	筑波大学
日本体育大学	27(13－11、14－13)24	関西大学

▼準決勝

大阪教育大学	25(13－7、12－12)19	武庫川女子大学
大阪体育大学	21(13－11、8－9)20	日本体育大学

▼決勝

大阪体育大学	18(12－9、6－5)14	大阪教育大学

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【宮　城】小野寺良洋【茨　城】菊田　政行【栃　木】坂本　定芳【群　馬】高橋　潔【埼　玉】田中　孝、星野　妙子、岡村　昭二【千　葉】山田　友美、金牧　稔【東　京】仁平　好則、加藤　祐策、飯田　信行、青山　俊介、寺嶋　潔、蒲生　澄子、岡前　義春、佐藤　俊男、佐藤　映子、嵩　聰久【神奈川】石井　美和、福井　俊彦、新井　益枝、生熊　健二、萬福　梨香、加古川範子、白井香代子、田原やよい、高澤　翔馬
【長　野】後藤　政俊【富　山】吉水　慎一【福　井】松田　範幸、川島　英樹、角谷喜代重【愛　知】筒井　理絵、山本　淳子、佐藤　壮一郎、野田　清【三　重】細野　秀男【滋　賀】高畠　典克【京　都】守本幸三郎
【大　阪】山中善之祐、赤星　明、徳光　弘介、西野　誠【兵　庫】川島　宏【鳥　取】足立　逸郎
【島　根】森江　和吉【岡　山】奥埜　啓子、奥埜　美峰【広　島】白石　隆、田中　友紀、山本　伸二
【福　岡】安河内正路【長　崎】藤山　聖子【熊本】藤田　八郎【鹿児島】濱田　直美

【2月・3月の行事予定】

【会議】……………………………………………………
2月11日(土)　第2回評議員会(東京)
2月12日(日)　第2回全国理事長会(東京)
2月18日(土)　第3回理事会(東京)
3月17日(土)　常務理事会(東京)

【大会】……………………………………………………
2月10日(金)〜12日(日)
全日本社会人チャレンジ2012(愛知県・名古屋市)
3月10日(土)・11日(日)
第36回日本リーグプレーオフ(東京都・駒沢体育館)
3月24日(土)〜28日(水)
第7回春の全国中学生選手権大会(富山県・氷見市)
3月25日(日)〜30日(金)
第35回全国高校選抜大会(岩手県・花巻市)

※前号のお詫びと訂正
前号(2011年12月号)の31頁に掲載いたしました「第66回国民体育大会」の記録で、最終種目名を「少年女子」とすべきところを誤って「成年女子」と記載しました。
お詫びして訂正させて頂きます。

HANDBALL CONTENTS Jan.Feb.

(登録チームの購読料は登録料に含む)


JAPAN
Fly to win.
勝利へ向かって翔ぶ力を。
日本代表着用モデル・プラクティスウエア
トップ：XH1011 ¥3,045（本体¥2,900）
パンツ：XH1512 ¥3,675（本体¥3,500）
asics
sound mind, sound body
●表示価格は、消費税込みのメーカー小売価格です。（ ）内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、TEL:0120-77-6338
asics.com
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
©J.H.A 平成21年ハンドボール日本代表候補



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五二五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十四年一月二十六日印刷 平成二十四年二月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表〇三—三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円